令和３・４年度
博物館年報・紀要

令和３・４年度

第 15 号

事業報告編

令和３年度各事業の実施状況

１．博物館事業……1

２．後援・共催・協賛事業及び施設利用……6

３．発掘調査・整理作業……7

４．文化財保護管理……8

５．刊行物・研究活動……8

令和４年度各事業の実施状況

１．博物館事業……11

２．後援・共催・協賛事業及び施設利用……15

３．発掘調査・整理作業……17

４．文化財保護管理……17

５．刊行物・研究活動……18

紀要編

指宿地域における縄文時代遺跡立地についての一考察　新垣　匠　……21

元治二年前田勘助日記にみえる「硝石丘小屋」について　中摩　浩太郎……25

市指定史跡「殿様湯跡」の構造と周辺環境　松﨑　大嗣……29

指宿市考古博物館　IBUSUKI ARCHAEOLOGICAL MUSEUM

時遊館（じゆうかん）CoCCo はしむれ

2023 年３月

指宿市教育委員会

序文

このたび，指宿市考古博物館　時遊館 COCCO はしむれ年報・紀要第 15 号を刊行いたします。

本号年報編では令和３・４年度の当館の活動記録をまとめています。

当館は令和３年４月 20 日で開館 25 周年となり，約 90 万人の方々にご来館いただきました。日頃より，市民のみなさまには，当館の活動にご理解いただき，見守ってくださる市民の皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。25 周年を記念して市民の皆様にさらに本市の歴史や文化を知っていただくために，指宿市の最大の観光資源である温泉に関する企画展を開催しました。また，博物館運営協議会の委員からいただいた提言を参考に，月間体験などのイベントも行い，多くの方々に当館により親しみをもっていただけるような博物館を目指し，取り組んでまいりました。

紀要編では当館所属の学芸員による縄文時代から江戸時代にかけた幅広い時代の研究テーマが掲載され，縄文時代では遺跡立地の変遷，江戸時代では，殿様湯跡の構造，前田勘助日記からは当時の山川港付近の状況などについて考察しております。指宿市内にはまだ多くの歴史が埋れており，今後の指宿市の歴史を解明することが期待されます。

今後も本市の文化財の調査研究を行い，その情報を発信することで，市民に地域の文化や歴史の魅力が伝わるよう，学習機会を拡充してまいります。

令和５年３月

指宿市考古博物館
時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ
館長　吉元　鈴代

令和３年度各事業の実施状況

令和３年度に実施した主な事業は，次のとおりである。以下，その概要を記す。なお，令和３年４月 20 日に当館が開館 25 周年を迎えたことから全てのイベントを「開館 25 周年記念」としている。

１　博物館事業

（１）企画展・体験学習・講座等

①ゴールデンウィークイベント「はしむれこどもフェスティバル」

（５月１日～５月５日　体験者 2,190 人）

ゴールデンウィーク限定イベントとしてテーマを「古代体験」として設定し，常設展示室の展示品をモデルとしたミニチュア土器を発掘する「本格的！古代の宝発掘体験」や，「古代の輝き！ガラス勾玉作り体験」令和２年度より実施している尾長谷迫遺跡の出土品を展示した「調査速報展」などを実施した。また，古代人の仮装を手作りしてそのなりきり度合いを競う「はしむれ古代人仮装大会」も行った。

②『開館 25 周年記念パネル展』

開館 25 周年を記念して，時遊館 COCCO はしむれ建設までの道のりやこれまで当館で実施してきた企画展・イベントを振り返り，これからのはしむれについても１階ロビーで展示した。

③夏のミニ企画展「ワールドシェルコレ 2021 ～世にも珍しい世界の貝展～」

（７月 17 日～８月 31 日　来場者：2,940 人）※観覧無料

夏季休暇期間に，指宿市在住の貝研究者 中島耕作氏（元日本貝類学会会員・元九州貝類談話会会員）所蔵の国内外で採集された貝の展示を行った。令和３年度は，指宿市内の貝殻採集ポイントや，採集の方法，標本の作り方についてだけでなく，貝それぞれの変わった特徴や生態を分かりやすく説明し，世界各国の貝や海洋文化についても解説した。

④『東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル』（８月 13 日～ 16 日）

東京 2020 パラリンピックの聖火を時遊館 COCCO はしむれ１階ロビーで展示した。

⑤ミニ企画展「人類 VS 病－病との永きに渡る闘いの歴史－」

（９月 18 日～ 11 月７日　来場者：1,182 人）※観覧無料

2020 年，全世界で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症。歴史的に人々は病に対してどのような対策をとり，どのように接してきたのか考古資料や文献資料，民俗資料などで振り返り，市民に人類と病との永きに渡る闘いの歴史について知っていただき，人類が様々な病を乗り越え，今に至っていることを再認識していただくために開催した。縄文時代の祈りの道具として使用されたとされる土偶や日本最古のマスクのレプリカを展示した。

⑥文化庁「記念物 100 年展」（9 月 18 日～ 12 月 28 日）※観覧無料

史跡などの記念物を保護する法律「史蹟名勝天然記念物保存法」が施行されて 100 年を迎えたことをを記念して，文化庁が作成したパネルを用いて「記念物 100 年展」を時遊館 COCCO はしむれで開催した。

⑦企画展「指宿まるごと博物館Ⅻ　泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉～」

（12 月 11 日～令和４年７月３日　観覧料　大人 200 円，小人 100 円　来場者数：4,176 人）

指宿は世界に誇る温泉の「都」として知られている。日本で唯一の天然砂蒸し温泉をはじめ，海，山，湖に囲まれた多様な自然環境のいたるところに温泉が点在し，地域のシンボルや集いの場として機能している。これほど多様な温泉を生み出した背景には，「火山」がある。火山は時には大きな災害を引き起こす自然脅威となるが，一方では，地熱の恵みを用いた豊かな温泉文化を育んだ。その温泉文化は歴史が古く，中世の古文書には砂蒸し温泉の記述がみられ，列島の中でもいち早く西欧諸国へその存在が知られることになった。また，歴代鹿児島藩主の温泉別荘が次々と建てられ，指宿温泉は海浜部を中心に温泉だけでなく保養所や湯治宿としての機能も発展した。さらに，地熱発電や製塩工場，熱帯植物栽培に蒸し調理まで，温泉文化は観光地指宿を支える大きな構成資産となっている。

市内にはいくつ源泉があるのか，市内にはどのような温泉施設があるのか，違いは何か，どこに行けばどのような温泉に入れるのか，指宿温泉はいつから誕生したのか・・・など。これらの謎を徹底解明するために，すべての温泉施設・宿泊施設・療養施設，はたまた個人宅の湯まで学芸員が徹底調査を行った。身近にある指宿の宝，温泉。その魅力を多くの市民の方々に知っていただき，ぜひ浴場まで足を運んでもらいたいという思いから本企画展を開催した。

－展示構成－

第１章「温泉海渚に出づ　此地沙蒸を用ゆ」

指宿の海浜において砂むし温泉ができる理由について，「海」，「火山」，「地熱」というキーワードを用いて説明した。また，市内の海浜部で砂むしを体験する「〇〇で砂むし温泉やってみた！」について，写真と動画を用いて展示した。

第２章「湯豊宿誕生ヒストリー」

「なぜ指宿は“いぶすき”と呼ばれるようになったか」というテーマから出発し，古来から温泉資源や海洋資源が豊かだったからこそ生まれた指宿温泉の特質を明らかにし，近世の鹿児島藩主専用の浴場跡「殿様湯跡」の構造について紹介した。

第３章「泉都指宿を支えた公衆浴場」

指宿市内に点在する公衆浴場について，その歴史や構造，特徴などについて写真を用いて紹介した。そのほとんどが海水と深いかかわりのある「塩化物泉」であることも示した。

第４章「一度は泊まってみたい指宿の名宿」

指宿市内のホテル，旅館の歴史や温泉の特徴を紹介した。また，昭和初期からの写真を展示し，かつてあった指宿の名宿についても紹介し，それらが海に面した場所に建てられ，「オーシャンビューを意識した立地になっていること」を紹介した。

※開催にあたっては，公益財団法人　日本海事科学振興財団　船の科学館「海の学び　ミュージアムサポート」の助成金を利用した。

■はしむれ日曜講座

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として，企画展に関連する講座を開催した。

	開催日	講座名	講師	参加者
1	12 月 12 日	指宿温泉放浪記～指宿の温泉総まくり～	松﨑　大嗣 （当館学芸員）	23

⑥常設展関連イベント「ダークネスミュージアム 2021 ～古代にタイムスリップ！君は闇の中から答えを導き出せるか～」（12 月 18 日・19 日　参加者 166 名）

常設展示室を活用したイベントとして，暗い常設展示室内に隠されたキーワードを探すイベントを実施し，達成できた方には景品をプレゼントした。

⑦ミニ企画展「篤姫のひなまつり展」（１月 29 日～３月６日　観覧者 760 人）※観覧無料

市民から寄贈された雛壇飾りや土人形，色打掛等を展示した。また，鹿児島の伝統的な土人形を飾り，土人形についてのパネル展示も行った。

⑧学びのふるさと講座（全５回，聴講者数 141 人）

自然・歴史・考古・産業など様々な分野の専門家を招き，講座を開催することで，市民が生涯を通じて学び，その学習成果をまちづくりに生かし，潤いと活力のある郷土の実現を図ること，そして「指宿まるごと博物館」の素材の活用，市民の文化財愛護精神の醸成を図ることを目的とした講座を全５回開催した。

令和３年度は指宿市の民俗信仰，はやぶさ２と宇宙，ミニ企画展「人類 VS 病　病との永きに渡る闘いの歴史」，企画展「泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉～」に関連するテーマで講座を設けた。

回	開催日	テーマ	講師	参加者
1	５月 15 日	モイドンと先祖祭祀	川野　和昭 氏 南方民俗文化研究所	17
2	８月 14 日	はやぶさ２と宇宙について	前田　利久 氏 鹿児島県立明桜館高等学校教頭	17
3	10 月 16 日	人々と感染症	西　順一郎 氏 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授	19
4	12 月 18 日	史料と資料から探る 指宿温泉の魅力	東川　隆太郎 氏 NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会　代表理事	54
5	１月 22 日	効果的な指宿温泉の入り方	六三四 氏 鹿児島温泉の会代表・温泉ソムリエ協会師範	34

⑨スター・ウォッチング（全１回，参加者計 24 人）

年２回開催している星空観察会。令和３年度は当館所有及び外部講師の天体望遠鏡を用いて，夏と冬の星座とその動きを観察し，天体に興味・関心を持ってもらうことを目的とした。

回	開催日	テーマ	講師	参加者
1	８月 13 日	夏の星座と月をみよう！	森永　成一 氏 （鹿児島市立谷山北中学校教諭）	中止
2	３月 12 日	冬の星座をみよう！	森永　成一 氏 （鹿児島市立谷山北中学校教諭）	24

⑩はしむれジュニア学芸員養成講座（中止）

小学５年生～中学２年生を対象に，時遊館 COCCO はしむれのジュニア学芸員の養成講座を実施する予定であったが，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

⑪月間体験

来館者の増加を促進するために，「月間体験」を企画し，親子で参加できるようなイベントを月毎に実施した。

月	イベントタイトル	体験人数	定員
4月	美しすぎるキラキラ蝶レジンヘアピン	360	300
5月	空をゆらゆらこいのぼりキーホルダー	308	300
6月	紫陽花レジンブローチ	304	300
7月	夜空のパズルピースネックレス	348	300
8月①	ミニヨーヨーイヤリング	331	300
8月②	雲レジンキーホルダー	269	300
9月	ドキ土器パズルキーホルダー（まん延防止等重点措置のため１月に延期）	―	―
10月	かぼちゃの中のおばけくんキーホルダー	268	300
11月	木の葉のレジンキーホルダー	169	300
12月	ミニミニスノードームキーホルダー	208	300
1月	ドキ土器パズルキーホルダー	121	300
2月	アクア鉱物レジンキーホルダー	193	300
3月	ゆらフラワーイヤリング	188	300
合計		3067	3600

（２）学習支援活動

来館者に対する学習支援のほか，博物館実習生や職場体験学習の受入れ，市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施した。

①キャリアスタート・ウィーク

市内の中学２年生を対象とした職場体験学習の受け入れを行う予定であったが，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

②令和３年度小・中学校博物館利用実績・出前授業実績（●：市内の学校・団体，体験内容等に記載がない場合は常設展示室見学のみ）

	日付	団体名	人数	体験内容	指宿大好き体験	社会科授業地層見学	出前授業
1	4 月 16 日	広島県尾道市立因島南中学校	24	石勾玉・オリビン万華鏡	○		
2	4 月 24 日	枕崎わんぱくクラブ学童	66				
3	4 月 28 日	自立支援センターぱれっと	25	消しゴム			
4	5 月 7 日	指宿市立柳田小学校●	58	オリビン万華鏡		○	
5	5 月 8 日	指宿市立丹波小学校●	83	縄文と弥生のくらし		○	
6	5 月 10 日	垂水市立垂水中央中学校	5		○		
7	5 月 11 日	垂水市立協和小学校	19				
8	5 月 11 日	鹿児島市立吉田南中学校	62				
9	5 月 19 日	志布志市立野神小学校	14				
10	5 月 19 日	さつま町立永野小学校	8				
11	5 月 28 日	鹿児島市立和田小学校	140				
12	5 月 31 日	三島村立４校合同小学校	26				
13	6 月 1 日	西之表市立現和小学校	25				
14	6 月 2 日	曽於市立４校合同小学校	37				
15	6 月 4 日	指宿市立丹波小学校●	95	石勾玉		○	
16	6 月 16 日	垂水５校合同小学校	29				
17	6 月 17 日	指宿市立柳田小学校●	55	縄文と弥生のくらし		○	
18	6 月 18 日	南九州市立頴娃小学校６年生	23	オリビン万華鏡		○	
19	6 月 18 日	指宿市立魚見小学校●	14	縄文と弥生のくらし		○	
20	7 月 4 日	熊本県南阿蘇村立南阿蘇中学校	25		○		

	日付	団体名	人数	体験内容	指宿 大好き体験	社会科授業 地層見学	出前 授業
21	7 月 6 日	曽於市立末吉中学校	37	石勾玉・ オリビン万華鏡	○		
22	7 月 8 日	熊本県阿蘇市立一の宮中学校	25	オリビン万華鏡	○		
23	7 月 12 日	長島町立川床中学校	19	石勾玉			
24	7 月 14 日	鹿児島大学附属中学校	23	石勾玉・ オリビン万華鏡	○		
25	9 月 16 日	鹿児島市立宇宿小学校	85	石勾玉			
26	10 月 5 日	出水市立高尾野中学校	10	オリビン万華鏡	○		
27	10 月 8 日	指宿市立山川中学校●	71	指宿の戦跡		○	
28	10 月 11 日	薩摩川内市立城上小学校	11				
29	10 月 12 日	鹿児島県立指宿養護学校●	7			○	
30	10 月 13 日	鹿児島県立牧之原養護学校中学部	36				
31	10 月 13 日	さつま町立柏原鶴田小学校合同	52	オリビン万華鏡			
32	10 月 13 日	薩摩川内市立亀山小学校	92	石勾玉			
33	10 月 14 日	出水市立大川内中学校	11				
34	10 月 18 日	薩摩川内市立添田入来小学校	44	石勾玉			
35	10 月 18 日	広島県立広島三次中学校	37	オリビン万華鏡	○		
36	10 月 19 日	鹿児島市立皇徳寺中学校	30	オリビン万華鏡	○		
37	10 月 19 日	鹿児島市立伊敷中学校	38	オリビン万華鏡	○		
38	10 月 20 日	鹿屋市立東原小学校	23	オリビン万華鏡			
39	10 月 20 日	西之表市立小学校 6 校合同	56	消しゴム			
40	10 月 20 日	霧島市立牧園 4 校合同小学校	24	オリビン万華鏡			
41	10 月 20 日	薩摩川内市立東佐原小学校	10				
42	10 月 21 日	姶良市立錦江小学校	52	オリビン万華鏡			
43	10 月 22 日	指宿市立開聞小学校●	27	縄文と弥生のくらし		○	
44	10 月 26 日	志布志市立山重中学校	16	石勾玉		○	
45	10 月 26 日	鹿児島市立甲南中学校	38		○		
46	10 月 27 日	中種子町立野間小学校	47	消しゴム勾玉			
47	10 月 27 日	霧島市立天降川小学校	164				
48	10 月 27 日	西之表市立下西小学校	23				
49	11 月 3 日	福岡県大野城市立大利中学校	43	オリビン万華鏡	○		
50	11 月 9 日	鹿児島県立国分高等学校	37	石勾玉・ オリビン万華鏡	○		
51	11 月 11 日	指宿市立指宿小学校●	21	オリビン万華鏡		○	
52	11 月 14 日	熊本県立玉名高等附属中学校	14	月間体験・ あんぎん編み	○		
53	11 月 15 日	さつま町立盈進小学校	95	オリビン万華鏡			
54	11 月 15 日	福岡県築上町立権田中学校	27	オリビン万華鏡	○		
55	11 月 16 日	指宿市立魚見小学校●	14	大地のなりたち		○	
56	11 月 17 日	薩摩川内市私立東郷学園	54	石勾玉			
57	11 月 17 日	鹿児島市立郡山中学校	7				
58	11 月 18 日	指宿市立柳田小学校●	127	オリビン万華鏡		○	
59	11 月 18 日	鹿児島市立和田小学校	128	オリビン万華鏡			
60	11 月 19 日	福岡県私立筑紫女学園中学校	47	オリビン万華鏡	○		
61	11 月 19 日	指宿市立池田小学校●	17	オリビン採集		○	
62	11 月 20 日	福岡県福岡市立老司中学校	32	オリビン万華鏡	○		
63	11 月 24 日	出水市立水引小学校 6 年生	32	石勾玉			
64	11 月 24 日	霧島市立日向山中学校 3 年生	18	石勾玉	○		
65	11 月 28 日	熊本県菊陽町立武蔵丘中学校	78	万華鏡	○		
66	12 月 2 日	広島県熊野町立熊野中学校	31	万華鏡	○		
67	12 月 3 日	枕崎市桜山校区高齢者学級	24				
68	12 月 4 日	福岡県直方市立直方第 3 中学校	48	石勾玉・ オリビン万華鏡	○		
69	12 月 6 日	鹿児島県立牧之原養護学校	35	オリビン万華鏡			
70	12 月 7 日	鹿児島市立西伊敷小学校	70	消しゴム勾玉			

	日付	団体名	人数	体験内容	指宿大好き体験	社会科授業地層見学	出前授業
71	12 月 8 日	屋久島町立神山小学校	8	オリビン万華鏡			
72	12 月 8 日	鹿児島県立鹿屋高等学校	19	オリビン万華鏡	○		
73	12 月 9 日	鹿児島県立指宿養護学校高等部●	9	月間体験			
74	12 月 10 日	福岡県立折尾高校	36	オリビン万華鏡	○		
73	12 月 10 日	福岡県立宝城中学校	23	オリビン万華鏡	○		
74	12 月 11 日	大阪府立藤井寺高校	17	オリビン万華鏡	○		
75	12 月 14 日	長崎県立五島高校	22	オリビン万華鏡	○		
76	12 月 14 日	広島県呉市立和庄中学校	33	オリビン万華鏡	○		
77	12 月 14 日	鹿児島医療福祉専門学校歯科衛生学科	25				
78	12 月 14 日	鹿児島市立松原小学校	49	石勾玉			
79	12 月 15 日	福岡県立北九州特別支援学級高等部	30	オリビン万華鏡	○		
80	12 月 16 日	鹿屋市立鹿屋東中学校	53	石勾玉・ オリビン万華鏡	○		
81	12 月 16 日	熊本県錦町立錦中学校	25	石勾玉	○		
82	12 月 18 日	福岡県粕屋町立粕屋中学校	21	石勾玉	○		
83	12 月 20 日	熊本県宇土市立鶴城中学校	87	オリビン万華鏡	○		
84	12 月 21 日	姶良市立蒲生中学校	56	オリビン万華鏡	○		
85	12 月 24 日	上野地区営農公民館●	13	あんぎん編み			○
86	1 月 19 日	鹿児島県立市来農芸高校	16	オリビン万華鏡	○		
87	1 月 19 日	鹿児島市立吉野小学校	83	石勾玉・ オリビン万華鏡	○		
88	1 月 25 日	鹿児島市立谷山北中学校	38	石勾玉	○		
89	3 月 1 日	指宿市立山川中学校●	67	石勾玉			○
90	3 月 2 日	霧島市私立鹿児島第一中学校	29	万華鏡	○		
91	3 月 7 日	鹿児島市立西紫原中学校	29	石勾玉 オリビン万華鏡	○		
92	3 月 7 日	鹿児島市立向陽小学校	110				
93	3 月 8 日	鹿児島市立郡山小学校分教室	7	レジン勾玉			
94	3 月 8 日	鹿児島市立郡山中学校	5	万華鏡	○		
95	3 月 8 日	指宿市立南指宿中学校●	11				
96	3 月 9 日	霧島市立上小川小学校	40	石勾玉			
97	3 月 9 日	鹿児島市立伊敷台中学校	32	オリビン万華鏡	○		
98	3 月 18 日	薩摩川内市立川内中央中学校	31	石勾玉	○		
99	3 月 22 日	鹿児島市立鹿児島商業高校	128				
合計			4056	件数合計	41	13	2

２　後援・共催・協賛事業及び施設利用

（１）指宿まるごと博物館実行委員会への活動支援

令和３年度事業として，文化庁の「地域文化財総合活用推進事業」を活用し，市内に点在する約 120 箇所の埋蔵文化財包蔵地のうち,比較的資料が蓄積されているものをピックアップした冊子「指宿文化遺産図鑑～埋蔵文化財編～」を刊行した。

（２）時遊館 COCCO はしむれ友の会支援活動

時遊館 COCCO はしむれ友の会は，指宿市考古博物館　時遊館 COCCO はしむれを中心としたさまざまな学習活動，ボランティア活動を通じ，指宿市の歴史と文化を学び，会員の自己研鑽を行うこと，同時に地域における歴史・文化学習のネットワークを形成し，会員相互の交流を深めることを目的とする会であり，会員数は現在約 90 人である。令和３年度は下記の活動支援を行った。

■はしむれ友の会春の遠足「今和泉まちあるき」　（参加者 :33 名　5 月 16 日）

■はしむれ友の会秋の遠足「さつま町・伊佐の旅」（参加者 :23 名　11 月 28 日）

（３）市民講座「もっと知ろう！ふるさと学」

市の生涯学習事業である市民講座への講師協力。７月～ 12 月の第３火曜日開催，全６回

回	開催日	分野	講師	テーマ	参加者
1	7 月 20 日	考古	松﨑　大嗣	古代の亀卜と鉄製甲臺	15
2	9 月 21 日	歴史	新垣　匠	人類と病の歴史”感染症を中心に”	15
3	10 月 19 日	考古	新垣　匠	未だ謎の多い指宿の古墳時代について	12
4	10 月 31 日	考古	新垣　匠	フィールドワーク（尾長谷迫遺跡見学）	11
5	11 月 16 日	民俗	中摩　浩太郎	指宿の郷土芸能	6
6	12 月 21 日	歴史	松﨑　大嗣	湯豊宿　名湯ぶらり旅	14

（４）展示会の開催

①第 32 回いぶすきシルバー美術展（８月１日～８月 18 日　入場者 2,061 人）

県内の 60 歳以上の方々なら誰でも応募資格をもつ，ユニークな絵画の公募展。今回は 170 点を越える作品が集まり，最高齢出展者は 96 歳であった。指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会いぶすきシルバー美術展実行委員会による開催。

②鹿児島県「家庭の日」絵画・ポスター・標語作品展（12 月８日～ 22 日 入場者 :1,315 人）

鹿児島県「家庭の日」絵画・ポスター・標語作品展に係る入賞作品の展示。鹿児島県及び青少年育成県民会議による開催。

③「美術サークル　いでゆ会員　OB・OG 合同作品展」（令和４年２月 12 日～ 20 日 入場者 :202 人）

市内の美術サークル「いでゆ会」の OB・OG による作品展。いでゆ会による開催。

（５）いぶすき検定の実施協力

指宿商工会議所が実施している小学校５・６年生と中学校１・２年生を対象とした「いぶすきジュニア検定」を実施した。「いぶすき検定」は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

（６）NPO 法人指宿観光＆体験の会への協力

NPO 法人指宿観光＆体験の会では，世界でもめずらしい天然砂むしの体験をはじめ，いぶすき広域ならではの自然資源・人的資源を最大限に活かした農林業体験や漁業体験，自然体験，味覚体験など魅力的なプログラムを準備している。修学旅行シーズンにおいて，博物館で実施している「オリビン万華鏡体験」・「古代人ネックレス作り体験」を館で行うなどの協力を行った。令和３年度は 41 校の利用があった。

３．発掘調査・整理作業

（１）市内遺跡確認調査及び本調査

開発対応に伴う遺跡の確認調査及び本調査を，下表のとおり実施した。

遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査起因	主な遺構	主な遺物
敷領遺跡	十町	2021 年 7 月 12 日～ 16 日	8 ㎡	市営住宅の建設	竪穴建物跡	成川式土器
成川遺跡	山川成川	7 月 19 日～ 21 日	6 ㎡	社員寮の建設	－	－
中尾迫遺跡隣接地	西方	9 月 27 日～ 30 日	25 ㎡	避難路の建設	－	－
尾長谷迫遺跡	西方	10 月 4 日～ 12 月 28 日	193 ㎡	法面改良事業	竪穴建物跡	成川式土器

（２）橋牟礼川遺跡報告書作成に伴う整理作業

橋牟礼川遺跡西部土地区画整理事業に伴う昭和 63・平成元年に発掘調査が実施されたＶ区の整理作業を実施した。

４　文化財保護管理

（１）文化財防火デー

①市指定史跡文化財「殿様湯跡」：令和４年１月 30 日（中止）

②枚聞神社：令和４年１月 26 日（中止）

地域住民，自衛消防隊，消防団や消防署等関係機関が参加し，殿様湯及び枚聞神社社務所から出火したと想定した防火訓練を実施する予定であったが，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

（２）指定文化財等の保護

■文化財パトロール

市内指定文化財や周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の巡回パトロールを行った。また，台風災害後に指定文化財の被害状況調査も実施した。

■指定文化財・指定文化財以外の保存（管理修理）事業

市内にある文化財６件について，各種事業に対して補助金を交付した。

文化財名	所在地	種類	内容
仮屋アッカドン	池田	未指定	水道設置事業
中俣家住宅主屋	西方	国登録有形文化財	主屋の瓦修繕事業
長勝院跡石像物（快伝銘五輪塔）	西方	市指定有形文化財	環境整備
前田利右衛門住居跡（生誕地）	岡児ケ水	未指定	標柱立て替え事業
豊玉媛本殿	岩本	未指定	屋根修繕事業
霧島神社	開聞十町	未指定	環境整備

■文化財看板設置

経年劣化していた市指定史跡「殿様湯跡」の説明看板の設置，市指定有形文化財「前田利右衛門墓石」の矢印看板設置を行い，文化財の適切な保存と活用を図った。

文化財名	所在地	種類	内容
殿様湯跡	十町	市指定史跡	説明看板設置
前田利右衛門墓石	山川岡児ケ水	市指定有形文化財	矢印案内看板設置

（３）新指定の文化財

・市指定文化財「色絵薩摩角形瓶」（令和４年２月 25 日）

５　刊行物・研究活動

（１）『指宿まるごと博物館Ⅻ　泉都指宿一度はおいで　～世界に誇る海浜温泉～』展示図録

企画展「指宿まるごと博物館Ⅻ　泉都指宿一度はおいで　～世界に誇る海浜温泉～」の展示内容を紹介。

（２）『農村地域防災減災事業（農村災害）指宿地区宮之前避難路建設に伴う発掘調査報告書　宮之前遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第 67 集

平成 30 年度に実施した宮之前遺跡発掘調査で出土した資料の整理を行った。

（３）『令和３年度市内遺跡確認調査報告書』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第 68 集

令和３年度に実施した敷領遺跡・成川遺跡・中尾迫遺跡隣接地の確認調査を行い，遺跡の記録保存を行った。

（４）学会発表・講演会発表・論文発表等

■新垣 匠　2021「縄文時代の南薩地域における南島交流」『南島考古』第 40 号 沖縄考古学会 pp. 21-26

■松﨑 大嗣・鐘ヶ江賢二　2021「鹿児島地域の成川式土器における湯取り法炊飯と米蒸し調理」日本考古学協会第 87 回総会（オンラインで口頭発表　5 月 23 日）

■松﨑 大嗣　2021「九州南部における蒸し調理技術の復元」令和３年度鹿児島県考古学会総会研究発表会（7 月 18 日）

■松﨑 大嗣・鐘ヶ江賢二 2021「鹿児島地域の成川式土器における湯取り法炊飯と米蒸し調理」『日本考古学協会第 87 回総会研究発表要旨』p. 89

■松﨑 大嗣　2021「九州南部における蒸し調理技術の復元」『令和３年度鹿児島県考古学会総会研究発表会要旨集』pp. 14-18

■松﨑 大嗣　2022「災害からみえる古代の九州南部」『歴史研究』第 699 号 pp. 48-53 戎光祥出版

■新垣 匠　2022「鹿児島本土における石敢當の伝播時期と形状について」『地域考古学研究の可能性 - 中摩浩太郎さん退職記念論集』pp. 163-169

■上田 洋子　2022「山川港津口番所の堺銘刻印瓦の紹介−県内の出土例と合わせて−」『地域考古学研究の可能性 - 中摩浩太郎さん退職記念論集』pp. 153-162

■西牟田 瑛子　2022「明治時代の教科書『鹿児島県地理唱歌』の郷土教育への活用−「指宿まるごと博物館構想」の実践例−」『地域考古学研究の可能性 - 中摩浩太郎さん退職記念論集』pp. 171-180

■松﨑 大嗣　2022「紫コラ火山灰の降下年代再考」『地域考古学研究の可能性 - 中摩浩太郎さん退職記念論集』pp. 83-106

はしむれこどもフェスティバルイベント
「はしむれ古代人仮装大会」

ミニ企画展展示解説の様子

月間体験の様子（５月）

企画展展示解説の様子

『はしむれこどもフェスティバル』ポスター

ミニ企画展『ワールドシェルコレ 2021 世にも珍しい世界の貝展』ポスター

ミニ企画展『人類 VS 病－病との永きに渡る闘いの歴史－』ポスター

企画展『泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉』ポスター

令和４年度各事業の実施状況

令和４年度に実施した主な事業は，次のとおりである。以下，その概要を記す。

１　博物館事業

（１）企画展・体験学習・講座等

①ゴールデンウィークイベント「はしむれこどもフェスティバル」

（４月 29 日～５月５日入館者 2,816 人）

ゴールデンウィーク限定イベントとしてテーマを「古代体験」として設定し，常設展示室内に隠された問題を解く「はしむれトレジャーハント」，ガラスや錫を用いた「ガラス勾玉作り体験」，「錫の勾玉作り体験」などを実施した。また，３年ぶりに「鉄道模型Ｎゲージ」と「ミニ四駆大会」も同時開催した。

②夏のミニ企画展「シェルコレ 2022- 貝の進化５億年の旅 -」

（６月 18 日～８月 31 日　来場者：3,180 人）※観覧無料

夏季休暇に合わせて，指宿市在住の貝研究者 中島耕作氏（元日本貝類学会会員・元九州貝類談話会会員）所蔵の，現生の貝標本や，鹿児島県立博物館所蔵の化石標本等を展示し，貝の進化の歴史と多様性について紹介した。

【関連イベント】

■標本名づけ教室（８月 11 日　参加者：９組）

■ゆめかわ♡マーメイドシェルキーホルダー作り（開催期間中　参加者 66 人）

③企画展　指宿まるごと博物館ⅩⅢ「指宿が生んだ芸術家　木佐貫　熙　展」

（10 月１日～令和５年３月 12 日　来場者：2,209 人）※有料　大人 200 円　小人 100 円

木佐貫熙氏は指宿の芸術文化を語る上では欠かせない人物である。父が仏師だった影響もあり，幼いころから，絵などの芸術作品をみることが好きだった木佐貫が，本格的に芸術に触れるようになったのは，甲南高校の美術部に入部してからである。同窓には鹿児島市立美術館元館長である文田哲雄氏，１期上には二科展元会長である大嵩禮造（おおたけれいぞう）氏が在籍しており，のちに鹿児島県の芸術分野を牽引するメンバーと切磋琢磨していた。しかし，当時の木佐貫はキャンバスや油彩具を買うお金もなく，遠くは福岡まで出稼ぎに行っていた。道具に恵まれない中，作品の構成力や仕上げる執着心は物凄く，高校３年生の時には南日本美術展に入選を果たしている。

その後，鹿児島大学教育学部美術学科を経て，種子島西之表市の国上小学校に赴任し，美術教諭としての教員生活を開始する。赴任式では，挨拶代わりに唄を披露したりと周りを驚かすようなことをするかと思えば，種子島の方言を取り入れて生徒と接し，非常に生徒想いと評判であった。昭和 37（1962）年に，旧山川町大成中学校（現在は閉校）に異動をきっかけとして，指宿での生活が始まった。大成中学校在籍時には，山川文学同好会（後の山川文学）や人形劇団「いも虫」の立ち上げに携わり，芸術だけでなく，文化分野にも手を広げるようになる。

木佐貫氏が彫刻を本格的に始めたのは，44 歳となった昭和 55（1980）年である。鹿児島県美術協会の推薦を受け，東京学芸大学の彫刻研修生として１年間国内留学した。これが契機となり，日本最高峰であり最大の展覧会である日展（日本美術展覧会）にも出展し，入選も果たしている。その影響で県内各地から屋外彫刻の依頼を受け，その点数は 19 を数える。

東谷山中学校を最後に定年退職された後も，教員生活終盤で開始した「いぶすきシルバー美術展」の実行委員長や指宿市文化協会指宿支部顧問の役員を現在も務めている。86 歳になった今でも指宿の芸術を支え続けている木佐貫熙氏について，多くの市民の方々に知っていただき，指宿の芸術文化や美術に対する理解を深めてもらいたいという思いから本企画展を開催した。

展示構成

第１章：〝千枚札〟：木佐貫熙

第１節　芸術家：木佐貫熙について

第２節　父：敬介と母：スイノの出会い

第３節　芸術への入門

第４節　教師と芸術家

コラム　妻恵子との出会い

展示品：父 敬介作の仏像５体，木佐貫氏制作版画３点など

第２章：彫刻への目覚め

第１節　東京学芸大学への留学

第２節　各地の屋外彫刻作品

コラム　木佐貫のインタビュー映像

展示品：日展や南日本美術展に出展した作品 18 点

第３章：今を生きる

第１節　何事にも全力で取り組む木佐貫

第２節　世界を旅した木佐貫

第３節　いも虫人形劇団

第４節　彫刻工房　土　での生活

第５節　いぶすきシルバー美術展を創設

展示品：紙芝居「三匹のこぶた」，スケッチブック５点など

おわりに　指宿の芸術文化の未来

■はしむれ企画展講座

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として，企画展に関連する講座とフィールドワークを開催した。

	開催日	講座名	内容	講師	参加者
1	10 月２日	魅力あふれる鹿児島美術への誘い	近現代の日本美術界を牽引した鹿児島出身の美術家について	新垣　匠（当館学芸員）	12
2	11 月３日	指宿美術探訪	市内にある木佐貫熙氏の作品４点を見学	木佐貫　熙 芸術家	9

④ミニ企画展「篤姫のひなまつり展」（１月 30 日～３月 19 日）※観覧無料

市民から寄贈された雛壇飾りや伝統的な土人形，昭和初期の雛飾りや色打掛等を展示した。また，古墳時代の土器や石製品をお内裏様やお雛様に見立てた土器びなも初展示した。

⑤市民のための「いぶ好き『ふるさと学』」講座（全５回，聴講者数 200 人）

自然・歴史・考古・産業など様々な分野の専門家を招き，講座を開催することで，市民が生涯を通じて学び，その学習効果や能力をまちづくりに生かし，潤いと活力のある郷土の実現を図ること，そして「指宿まるごと博物館」の素材の活用，市民の文化財愛護精神の醸成を図ることを目的とした講座を全５回開催した。また，多くの方に参加できるように第１回～第３回は ZOOM を用いたオンライン配信も行った。

令和４年度は企画展「泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉～」・「指宿が生んだ芸術家 木佐貫　熙展」に関連するテーマで講座を設けた。

回	開催日	テーマ	講師	参加者
1	4月 16 日	世界に誇る指宿の温泉の秘密	大木　公彦 氏 鹿児島大学名誉教授	52 (内：５名オンライン
2	5月 14 日	観光を促進する要因，地元帰属意識，地元とは～あがらとは～	丸山　政行 氏 鹿児島国際大学大学院経済学研究科教授	35 (内：３名オンライン)
3	6月 18 日	温泉を愛した殿様たち	原口　泉 氏 志學館大学人間関係学部教授	77 (内：14 名オンライン)
4	10 月 1 日	作者によるギャラリートーク	木佐貫　熙 氏 芸術家	31
5	12 月 17 日	版画で作る絵手紙	木佐貫　熙 氏 芸術家	5

⑥学芸員講座

当館に所属している学芸員による指宿市の歴史・文化・自然・産業など様々な分野に関する講座。７月～３月まで全７回開催。

回	開催日	分野	講師	テーマ	参加者
1	7月 23 日	観光	松﨑　大嗣	泉都指宿の過去・現在・未来	22
2	8月 27 日	土木史	中摩　浩太郎	指宿における鹿児島藩の幕末公共工事	26
3	9月 17 日	産業	西牟田　瑛子	指宿　植物産業史	13
4	10 月 15 日	美術史	新垣　匠	指宿美術史	18
5	1月 21 日	考古	松﨑　大嗣	まるごと見せます。指宿発掘調査の新知見 !!	14
6	2月 18 日	考古	西牟田　瑛子	魅力たっぷり！指宿の縄文時代について	26
7	3月 18 日	歴史	中摩　浩太郎	前田勘助日記をよんでみよう	28

⑦スター・ウォッチング（全１回，参加者計 20 人）

年２回開催している星空観察会。当館所有及び外部講師の天体望遠鏡を用いて，季節の星座とその動きを観察し，天体に興味・関心を持ってもらうことを目的とした。

回	開催日	テーマ	講師	参加者
1	8月 12 日	夏の星座と月を見よう	森永　成一 氏 (鹿児島市立谷山北中学校教諭)	中止
2	2月 13 日	冬の星座と星団を見よう	森永　成一 氏 (鹿児島市立谷山北中学校教諭)	20

⑧はしむれジュニア学芸員養成講座（参加者 ７人）

市内の児童・生徒に，様々な体験を通して学芸員の仕事を理解させ，市内の文化財を巡ってもらい，その重要性を理解させると同時に，時遊館ＣＯＣＣＯはしむれの常設展示室の案内および日本で初めて縄文土器と弥生土器の新旧関係を明らかにした国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の意義と重要性を理解させ，それらを説明できる人材を育成することを目的とした。令和４年度は市内の小学生７名が参加し，「市内の文化財巡り」，「敷領遺跡発掘調査体験」，「常設展示室の展示解説の練習」を行い，その後，来館者案内に取り組んだ。講座終了後には，認定証を発行した。

⑨月間体験イベント

来館者の増加を促進するために，親子で参加できるようなイベントを月毎に実施した。

月	イベントタイトル	体験人数	定員
４月	ステンドグラス風蝶レジン	347	400
５月	シーグラスレジンのこいのぼり	345	400
６月	大人カワイイ♡あじさいリング	344	400

月	イベントタイトル	体験人数	定員
７月	ふわキラ★流れ星レジン	317	400
８月	お祭り気分　ミニチュア金魚すくいレジン	445	400
９月	古代オリジナルドール	152	400
10月	trick or treat　ハロウィンレジン	316	400
11月	神秘的★オーロラレジン	309	400
12月	ドライフラワーのクリスマスハーフスワッグ	198	400
１月	昔遊びコーナー	－	－
２月	ミモザとパールのアクセサリー	226	400
３月	桜咲くハーバリウム	－	400
合計		2999	4400

（２）学習支援活動

来館者に対する学習支援の他，博物館実習生や職場体験学習の受入れ，市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施している。

①キャリア・スタート・ウィーク

市内の中学２年生を対象とした職場体験学習の受け入れを行う予定であったが，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

②博物館実習（７月 25 日～８月３日）

７月 25 日から８月３日までの期間，鹿児島国際大学人間文化学部４年生２名を受け入れた。課題の一つである「ミニ展示作成（土器の使用と技術の発展）」の成果を，８月 31 日まで１階ロビーで展示した。

③令和４年度熊本大学社会教育主事講習現地研修（８月５日）

熊本大学による教職員等を対象とした社会教育主事講習現地研修の受け入れを行った。15 名の参加があり，時遊館 COCCO はしむれの常設展示室および国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の案内を行った。

④フレッシュ研修（初任校研修）２年目研修における地域体験研修（８月３日～５日）

指宿商業高等学校の教員１名を地域体験研修として受け入れた。課題の一つとして「博物館活用促進を図る手段の提言」を与え，職員向けにプレゼンテーションを行った。

⑤令和４年度小・中学校・一般団体博物館利用実績・出前授業実績（●：市内の学校・団体，体験内容等に記載がない場合は常設展示室見学のみ）

	日付	団体名	人数	体験内容	指宿大好き体験	社会科授業地層見学	出前授業
1	4 月 22 日	福岡県久留米市立荒木中学校	38	オリビン採集	○		
2	4 月 26 日	兵庫県姫路市立大白書中学校	38	オリビン採集	○		
3	5 月 11 日	南種子町立小学校７校合同	86				
4	5 月 13 日	福岡県北九州市立企救中学校	33	オリビン万華鏡	○		
5	5 月 17 日	鹿児島市立吉田小学校	27	石勾玉			
6	5 月 17 日	志布志市立野神小学校	34	オリビン万華鏡			
7	5 月 18 日	鹿児島市立西紫原中学校	32	オリビン採集	○		
8	5 月 23 日	兵庫県立丹波篠山市立篠山中学校	24	オリビン万華鏡	○		
9	5 月 25 日	中種子町立増田小学校	16				
10	5 月 25 日	中種子町立南界油久小学校	19	消しゴム勾玉			
11	5 月 25 日	薩摩川内市立市比野小学校	27	オリビン万華鏡			
12	6 月 3 日	指宿市立丹波小学校●	110	石勾玉		○	
13	6 月 13 日	指宿市立指宿小学校●	56	縄文と弥生のくらし		○	

	日付	団体名	人数	体験内容	指宿大好き体験	社会科授業地層見学	出前授業
14	6 月 15 日	薩摩川内市立水引小学校	22	石勾玉			
15	6 月 16 日	指宿市立柳田小学校●	67	縄文と弥生のくらし		○	
16	6 月 17 日	指宿市立魚見小学校●	21	縄文と弥生のくらし		○	
17	6 月 18 日	日置市吹上学童クラブ	29				
18	6 月 28 日	指宿市立池田小学校●	10	指宿の歴史		○	
19	7 月 9 日	指宿市立山川小学校●	63	指宿の歴史		○	
20	7 月 29 日	指宿市聖亜幼稚園●	11				
21	8 月 5 日	指宿市みどり幼稚園●	20	消しゴム勾玉			
22	8 月 20 日	鹿児島市やなぎ寮母子生活支援施設	27	オリビン採集・消しゴム勾玉			
23	8 月 29 日	熊本県高森町立高森中学校	10	オリビン採集	○		
24	9 月 8 日	佐賀県白石町立有明中学校	42	石勾玉・オリビン採集	○		
25	9 月 13 日	岡山県笠岡市立笠岡西中学校	22	石勾玉・オリビン採集	○		
26	9 月 16 日	指宿市立川尻小学校●	15	指宿の歴史		○	
27	9 月 21 日	福岡県豊前市立千東中学校	18	石勾玉・オリビン採集	○		
28	9 月 27 日	岡山県井原市立美星中学校	26	オリビン採集	○		
29	10 月 4 日	指宿市立魚見小学校	22	大地のなりたち		○	
30	10 月 5 日	埼玉県立所沢高校	43	オリビン採集	○		
31	10 月 5 日	鹿児島県立指宿養護学校	16	消しゴム勾玉			
32	10 月 5 日	指宿市立魚見小学校●	21	校区の歴史		○	
33	10 月 13 日	長崎県長崎市立三和中学校	20	オリビン採集	○		
34	10 月 13 日	出水市立大川内中学校	15				
35	10 月 20 日	長崎県大村市立西大村中学校	42	オリビン採集	○		
36	10 月 21 日	広島県ノートルダム清心高校	25	オリビン採集	○		
37	10 月 24 日	佐賀県星生学園	32	オリビン採集	○		
38	10 月 26 日	中種子町立野間小学校	36	消しゴム勾玉			
39	11 月 9 日	薩摩川内市立亀山小学校	90				
40	11 月 10 日	大阪府立豊島中学校	29	消しゴム勾玉	○		
41	11 月 16 日	薩摩川内市東郷学園	61	オリビン採集			
42	11 月 16 日	神奈川県立相模原高校	75	オリビン採集	○		
43	11 月 25 日	鹿児島市家族介護交流会	12				
43	11 月 28 日	さつま町立宮之城中学校	22	オリビン採集	○		
44	11 月 29 日	鹿児島市立郡山小学校	4	消しゴム勾玉			
45	12 月 3 日	南薩地区子ども会大会	100	オリビン採集			○
46	12 月 7 日	南九州市粟ヶ窪小学校	3	消しゴム勾玉			
47	12 月 7 日	広島県広島市立翠中学校	38	オリビン採集	○		
48	12 月 7 日	福岡県福岡市立早良中学校	112				
49	12 月 15 日	福岡県志免町立志免東中学校	55	石勾玉・オリビン万華鏡	○		
50	2 月 10 日	指宿市立池田小学校●	9	昔の道具		○	
51	2 月 16 日	広島県立尾道市立吉和中学校	4	オリビン採集	○		
52	2 月 16 日	指宿市立指宿小学校●	59	昔の道具		○	
53	2 月 24 日	指宿市立山川中学校●	69	消しゴム勾玉		○	
52	3 月 3 日	指宿市立指宿養護学校中等部●	5	キーホルダー			
53	3 月 3 日	鹿児島市立玉龍中学校	5				
合計			1967	件数	21	12	1

2　後援・共催・協賛事業及び施設利用

（1）時遊館 COCCO はしむれ友の会支援活動

時遊館 COCCO はしむれ友の会は，指宿市考古博物館　時遊館 COCCO はしむれを中心としたさまざ

まな学習活動，ボランティア活動を通じ，指宿市の歴史と文化を学び，会員の自己研鑽を行うこと，同時に地域における歴史・文化学習のネットワークを形成し，会員相互の交流を深めることを目的とする会であり，会員数は現在約 90 人である。令和４年度は下記の活動支援を行った。

■はしむれ友の会春の遠足「開聞まち歩き」　　（参加者 :34 名　6 月 11 日）

■はしむれ友の会秋の研修旅行「人吉・五木村の旅」（参加者 :33 名 10 月 22 日）

（２）展示会の開催

第 33 回いぶすきシルバー美術展（７月 31 日～８月 17 日　入場者 1,790 人）

県内の 60 歳以上の方々なら誰でも応募資格をもつ，ユニークな絵画の公募展。令和４年度は 152 点の作品が集まり，最高齢出展者は 97 歳であった。指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会いぶすきシルバー美術展実行委員会による開催。

（３）いぶすき検定の実施協力

指宿商工会議所が実施している小学校５・６年生と中学校１・２年生を対象とした「いぶすきジュニア検定」と，「いぶすき検定」の初級・中級・上級の問題作成を行うとともに，直前講習会の講師を務めた。また，指宿商業高校と指宿商工会議所と連携をとり，令和４年度から商業マネジメント科の生徒を対象として，いぶすき検定受験の取り組みを開始し，授業の一環として当館学芸員による受験対策講座を実施した。

（４）NPO 法人指宿観光＆体験の会への協力

NPO 法人指宿観光＆体験の会では，世界でもめずらしい天然砂むしの体験をはじめ，いぶすき広域ならではの自然資源・人的資源を最大限に活かした農林業体験や漁業体験，自然体験，味覚体験など魅力的なプログラムを準備している。修学旅行シーズンにおいて，博物館で実施している「オリビン万華鏡・採集体験」・「古代人ネックレス作り」を館で行うなどの協力を行った。令和４年度は 21 校の利用があった。

（５）南指宿中学校フィールドワークへの協力（５月 16 日・17 日）

南指宿中学校が実施する市内の文化財や火山地形等を２日間かけてを巡るフィールドワークに，当館学芸員がガイドとして参加した。教員がコースを作成し，生徒が事前学習をした上で現地を見学し，学校に戻ってからまとめるカリキュラムであったことから，生徒が熱心に説明を聞き理解を深める姿が見てとれた。

（６）指宿市観光協会への協力

①観光ツアー「IBUSUKI　NATURE　WELLBEING」への協力

指宿市観光協会が主催する文化庁事業「観光再開･拡大に向けた文化観光コンテンツの充実事業」のコンテンツの１つとして時遊館 COCCO はしむれの展示解説を行った。また，日本料理「日高」が製作した縄文時代・弥生時代にも用いられていた食材や味付けを現代風にアレンジした「一万年弁当」の監修を当館学芸員が行った。

②いぶすき菜の花マラソンのパネル作成

「いぶすき菜の花マラソン」が第 40 回の節目を迎えたことから，その歴史を振り返るパネルを作成し，大会前日（１月７日）と当日（１月８日）の両日，会場に展示した。

また，１月９日～３月６日までの期間，パネルと優勝カップ（金栗杯）を時遊館 COCCO はしむれ１階ロビー及び階段に展示した。

（７）唐船峡そうめん流しへの協力

市営唐船峡そうめん流しが令和４年６月１日に開設 60 周年を迎えたことから，その歴史を振り返るパネルを作成し，唐船峡そうめん流しにて展示した。

（８）講座・講演会等の協力

市内の小・中学校，各種団体から依頼のあった講座・講演会等を行った。

■中摩 浩太郎 2022「いぶすきの歴史について」民生委員・児童委員の日特別研修会（５月 13 日）

■松﨑 大嗣　2022「泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉～」令和４年度指宿市生涯学習講座教養講座（6 月 25 日）

■西牟田 瑛子 2022「“地果て海はじまる”山川・開聞の歴史―海に開かれたまち　岡児ヶ水を中心に―」徳光ひまわり会（７月 29 日）

■西牟田 瑛子 2022「指宿に残る戦跡について」 第 38 回鹿児島県反核・平和の火リレー学習会（８月 12 日）

■松﨑 大嗣　2022「指宿の郷土芸能」技能実習生を対象にした交流事業（10 月 30 日）

■新垣 匠　2022「指宿の歴史」山川寿会（11 月 17 日）

３　発掘調査・整理作業

（１）市内遺跡確認調査

開発対応に伴う遺跡の確認調査及び本調査を，下のとおり実施した。

遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査起因	主な遺構	主な遺物
尾長谷迫遺跡	西方	令和４年４月１日～９月 30 日	327 ㎡	防災事業	竪穴建物跡	成川式土器
敷領遺跡	十町	７月７日	４㎡	個人住宅の建設	－	－
道下遺跡	西方	８月８日～ 12 日	６㎡	工場の建設	－	－
岩本遺跡	西方	11 月 25 日	２㎡	道路改良舗装	－	－
敷領遺跡	十町	10 月１日～令和５年３月 31 日	597 ㎡	市営住宅の建設	土器溜まり・竪穴建物跡	成川式土器
		３月 13 日～ 15 日	４㎡	個人住宅の建設		

（２）橋牟礼川遺跡報告書作成

指宿駅西部土地区画整理事業に伴う発掘調査で出土した資料の再整理を行った。

４　文化財保護管理

（１）文化財防火デー

①県指定有形文化財「指宿光明禅寺の木造阿弥陀如来立像」市指定有形文化財板碑「湯豊宿」（光明禅寺）：令和５年１月 28 日

②枚聞神社：令和５年１月 26 日

地域住民，自衛消防隊，消防団や消防署等関係機関が参加し，光明禅寺本堂及び枚聞神社社務所から出火した想定で防火訓練を実施し，文化財保護活動の大切さについて理解・協力を求めた。

（２）指定文化財等の保護

■文化財パトロール

市内指定文化財や周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の巡回パトロールを行った。また，台風・大雨による災害が発生した場合は，指定文化財の被害状況調査を行った。

■指定文化財・指定文化財以外の保存（管理修理）事業

市内にある文化財５件について，各種事業に対して補助金を交付した。

文化財名	所在地	種類	内容
上野神社	開聞上野	未指定	雨水排水路新設事業
豊前殿の墓	西方	未指定	環境整備事業
松梅蒔絵櫛笥附属品竝目録共一合	開聞十町	国指定重要文化財	保存修復事業
丸十金物百貨店店舗	西方	国登録有形文化財	２階壁・屋根修繕事業
霧島神社	開聞十町	未指定	屋根修繕事業

■文化財看板設置

経年劣化していた文化財の説明看板・矢印案内看板等の設置を行い，文化財の適切な保存と活用を図った。

文化財名	所在地	種類	内容
モクヨ山六地蔵塔	開聞十町	市指定有形文化財	説明看板設置
頼宋塚	開聞十町	市指定有形文化財	矢印案内看板設置
山川薬園跡及びリュウガン	山川福元	県指定史跡・天然記念物	矢印案内看板設置
正龍寺宝珠付角柱石塔婆	山川福元	市指定有形文化財	標柱看板設置
前田利右衛門墓石	山川岡児ケ水	市指定有形文化財	矢印案内看板設置

（３）無形民俗文化財の保存・継承

■指宿市伝統文化フェスティバル（令和５年１月 29 日　来場者：1,165 人）

（主催：指宿市・指宿市教育委員会・指宿市郷土芸能保存会）

市の伝統文化の保存・継承と，市民の郷土の歴史文化への誇りを醸成する機会の創出を目的として，指宿市民会館において伝統文化が一堂に会したイベントを実施した（一般財団法人　地域創造の「地域伝統芸能等保存事業」を活用）。舞台部門として，郷土芸能保存会６団体（小牧四ッ竹踊り保存会，宮之前唐人踊り保存会，中川ごちょう踊り保存会，玉利奴踊り保存会，山川漁り節保存会，脇浦古琴節保存会），伝統行事保存団体１団体（利永区「メンドン」）のほか，山川高等学校演劇部生徒，指宿市青年振興連絡協議会お囃子部，指宿市文化協会舞踊部による計 10 演目を披露した。

また，伝統文化体験コーナーとして，「郷土芸能の衣装や面をつけて写真を撮ろう！」「伝統行事イシナト体験」「本物の土器を触ってみよう」「煌めくガラス入り！はしむれレジン勾玉体験」を実施した。

５　刊行物・研究活動

（１）『指宿まるごと博物館ⅩⅢ　指宿が生んだ芸術家　木佐貫　熙　展』展示図録

令和４年度企画展「指宿が生んだ芸術家　木佐貫　熙　展」の展示内容を紹介した。

（２）『橋牟礼川遺跡（Ｖ区）』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第 69 集

橋牟礼川遺跡西部土地区画整理事業に伴う昭和 63・平成元年に実施したＶ区の整理作業を実施し，報告書を刊行した。

（３）『令和４年度市内遺跡確認調査報告書』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第 70 集

令和４年度に実施した敷領遺跡・道下遺跡等の確認調査に伴い，遺跡の記録保存を行った。

（４）『指宿市文化財保存活用地域計画』の作成に向けたワークショップ（全６回）

「文化財保存活用地域計画」とは，市町村において取り組んでいく目標や取組の具体的な内容を記載した文化財の保存・活用に関する基本的なアクションプランである。各中学校区（西指宿中学

校区・北指宿中学校区・南指宿中学校区・山川中学校区・開聞中学校区）と火山銀座（市内一円）のそれぞれの所在地において，市民を対象に文化財群を巡るまち歩きを行い，地域に残る文化財の保存・継承等や位置付け，保護活動の体験ツアーにおける課題などについて意見交換会を行った。

（５）学会発表・講演会発表・論文発表等

■松﨑 大嗣　2022「殿様湯跡の構造」令和４年度鹿児島県考古学会研究発表会（7 月 16 日）

■中摩 浩太郎　2023「新市民会館客席の布地は成川式土器文様『文化いぶすき』第 30 号 pp38-41

企画展ギャラリートーク

地域計画ワークショップ（北指宿中校区）

地域計画ワークショップ意見交換会（開聞中校区）

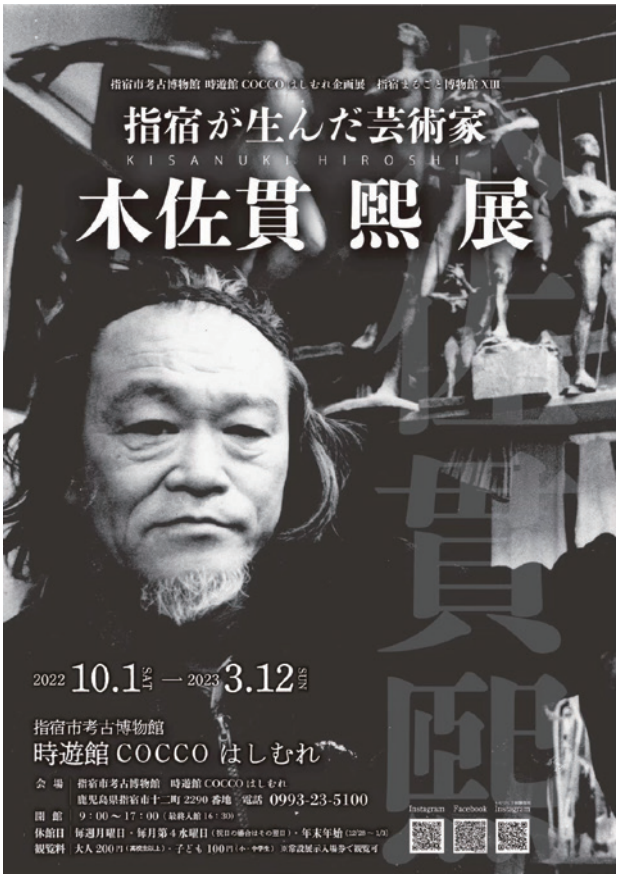
企画展関連講座「指宿美術探訪」

12 月体験イベントの様子

はしむれジュニア学芸員展示解説

『はしむれこどもフェスティバル』ポスター

ミニ企画展『いぶすきシェルコレ 2022 貝の進化５億年の旅』ポスター



企画展『指宿が生んだ芸術家　木佐貫　熙　展』ポスター

ミニ企画展『篤姫のひなまつり展』ポスター

指宿地域における縄文時代遺跡立地についての一考察

新垣　匠

１．はじめに

指宿市は薩摩半島の南端に位置し，約 120 か所の遺跡がある。約３万年前より指宿地域に人々が住んでいたと思われるが，縄文時代以降は南からの玄関口として，縄文時代より南島系遺物や関東系遺物が出土しており，北と南をつなぐ地域の１つであったと推測される。しかし，その遺跡立地については不明な点が多いため，縄文時代の各時期の遺跡分布状況を整理し，環境や社会背景に応じて遺跡の立地がどのように変遷していったのか遺跡の数が多い指宿地域を中心に考察したい[1]。

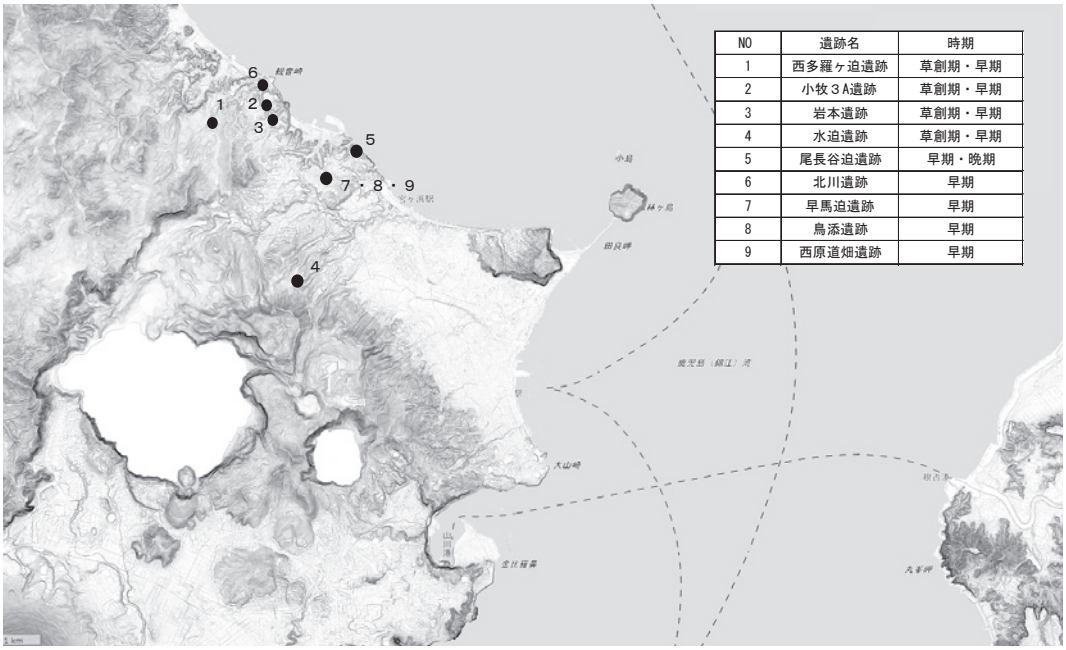
２．縄文時代草創期～早期

縄文時代になると気候が温暖化し，南九州一帯は，列島に先駆けて豊かな森が発達したことが想定されている。そのため，南九州では全国に先駆けて豊かな縄文文化が開花する。

指宿地域の草創期の遺跡は，集落遺跡の先駆けととして著名な水迫遺跡をはじめ，無文土器が見つかっている西多羅ヶ迫遺跡や隆帯文土器が見つかっている岩本遺跡・小牧３Ａ遺跡の４遺跡が挙げられる。遺跡分布は，本地域北部の台地上にまとまっており，標高も全遺跡 60 m以上である。水迫遺跡から出土した石器の残存デンプンを分析した渋谷綾子氏は，クリやコナラ属，オニグルミなどの堅果類，ワラビやクズなどの根茎類のデンプンが石器に付着していると考察しており，周辺の環境が照葉樹か広葉樹なのかは不明であるとしている（渋谷 2012）が，周辺は現在と同じように森林地帯であったと思われ，生息していた植物を加工していたと思われる。

草創期の遺跡観として堂込秀人氏は「狩猟・採集ばかりでの適地ではなく，生活素材の獲得・加工，それぞれのキャンプとの連携などのためにも選択されたのではないだろうか」としている（堂込 2019）。指宿地域の草創期の遺跡立地をみると４遺跡とも台地上の標高が高い地帯にあり，生活素材を調達しやすい場所でもあり，見晴らしの良い場所でもあるため，堂込氏の遺跡観と同様な立地をしているといえよう。

早期の遺跡は，草創期と同様に台地上に形成されている。霧島市上野原遺跡や鹿児島市加栗山遺跡



NO	遺跡名	時期
1	西多羅ヶ迫遺跡	草創期・早期
2	小牧３A遺跡	草創期・早期
3	岩本遺跡	草創期・早期
4	水迫遺跡	草創期・早期
5	尾長谷迫遺跡	早期・晩期
6	北川遺跡	早期
7	早馬迫遺跡	早期
8	鳥添遺跡	早期
9	西原道畑遺跡	早期

第１図　指宿地域の縄文時代草創期～早期の遺跡立地図

で集落跡が見つかっており，拠点的な集落が南九州一帯で確認され，これらの遺跡も台地上に形成されており，草創期と同様な遺跡立地を形成している。しかし，指宿地域では早期に伴う遺構は水迫遺跡の集石や舟形配石炉，落し穴，柱穴等のみであり，竪穴建物跡のような人が定着した痕跡は現段階では見つかっていない。尾長谷迫遺跡，早馬迫遺跡，鳥添遺跡，西原道畑遺跡では土器が確認されているだけである。そのため，全容は不明ではあるが，遺跡立地からみると草創期と同様に台地上を選んでいたと推測される。

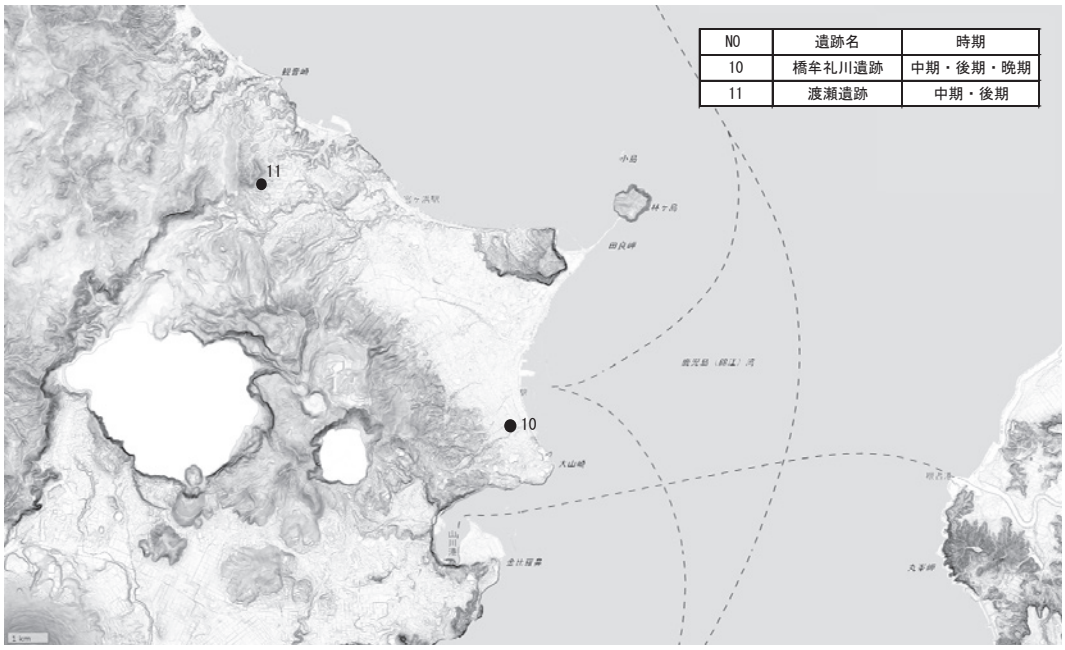
３．縄文時代前期～中期

温暖な気候の恩恵を受け，いち早く縄文文化が成り立った南九州であったが，その栄華は長くは続かなかったと考えられる。その主な要因として考えられるのが，鬼界カルデラの噴火（約 7,300 年前）である。

鬼界カルデラは硫黄島と竹島を含むカルデラであり，噴火で生じた火砕流（幸屋火砕流）により，南九州一帯は壊滅的な被害を受けたと考えられている。また，指宿地域では，池田カルデラの噴火（約 6,300 年前）も発生し，その火砕流は場所によっては 20 m近くあるなど，頻繁に火山活動の影響を受けている。そのため，現在まで指宿地域では縄文時代前期にあたる遺跡は確認されていない。

中期になると，橋牟礼川遺跡や渡瀬遺跡では阿高式土器が確認されているが，明確な遺構を伴う遺跡は確認されていない。特に橋牟礼川遺跡では，池田カルデラの火山性噴出物が厚く堆積していることが分かり，博物館建設に先立って行われた発掘調査では，地表面から約 5.5 m下の深さで，池田カルデラ噴出物の二次堆積層が確認されている。そのため，指宿地域の沖積平野で，縄文時代中期以前の遺跡を確認するためには，厚く堆積した池田カルデラの火山性噴出物を除去しなければならないため，現実的には難しい状況である。

しかし，本市山川地域に所在する成川遺跡では，曽畑式土器が確認されており，池田カルデラの噴火前後に人々がやってきた痕跡は確認されているため，指宿地域の当該期である程度の遺跡があるということは否定できない。



第２図　指宿地域の縄文時代中期の遺跡立地図

４．縄文時代後期～晩期

縄文時代後期・晩期になると，遺跡数が増えだし，台地上や火山性扇状地に分布するようになる。草創期・早期では遺跡が形成されていた場所が，標高も高く，台地上にあったのが，海岸に近い場所にも形成されるようになる。また，指宿地域北部では山間部の台地上に遺跡が分布していたのが，南部では海岸に近い海岸段丘上に遺跡が形成されるようになる。これは先述したように，池田カルデラの火山性噴出物の堆積状況による影響も考えられるが，注目すべき点である。

海岸付近に遺跡が形成される要因として市来式土器期以降の広域的な交流が考えられる。この時期の南九州では，屋久島・種子島でしか確認されていなかった南島系遺物が鹿児島本土でも出土するようになり，大渡遺跡では尖底土器や南島との関連が示唆される注口土器，南摺ヶ浜遺跡では，宇宿上層式土器が確認されており，山間部ではなく，より交流がしやすい海岸部付近に遺跡が形成されていったと考えられる。

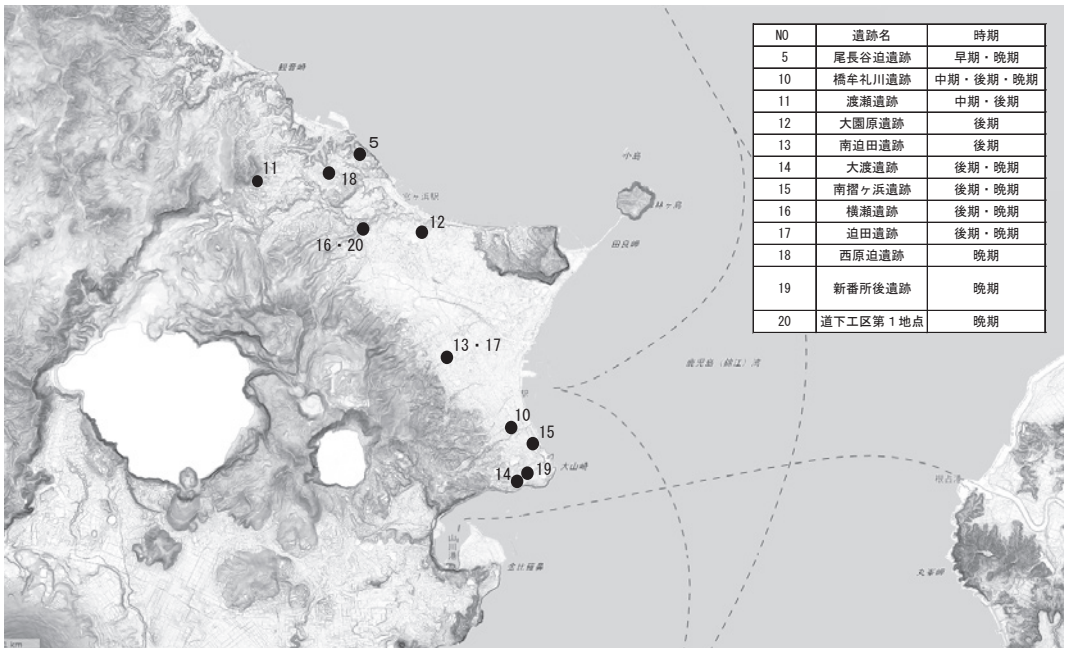
また，南島系遺物だけでなく，迫田遺跡では大洞式系土器が確認されており，本地域では，九州以北との交流も想定されている。大隅半島の当該期の遺跡立地は山間部が中心（板倉 2021）であり，種子島の遺跡立地は海岸部付近となっている（小脇 2019）。対岸にある大隅半島との様相が異なり，種子島との類似性が認められるのは，南島との交流の実態を考える一つの要素となるだろう。

５．まとめと課題

指宿地域における縄文時代の遺跡立地を分析した結果，草創期・早期の遺跡は山間部の台地上に形成され，前期・中期は池田カルデラの噴火の影響で遺跡数が激減するが，後期・晩期になると，海岸部の台地や扇状地にも遺跡が形成されるようになることが分かった。

これらの傾向は，山間部地帯で生活していた人々が，別の要因もあると推測されるが，その１つとして南島を含む遠方地域との交流のために，より海岸部付近で生活をするようになった結果と思われる。

今回の分析は遺跡立地から見た結果であり，遺物や遺構を含めた検討を行うことができなかったため，今後の課題としたい。



NO	遺跡名	時期
5	尾長谷迫遺跡	早期・晩期
10	橋牟礼川遺跡	中期・後期・晩期
11	渡瀬遺跡	中期・後期
12	大園原遺跡	後期
13	南迫田遺跡	後期
14	大渡遺跡	後期・晩期
15	南摺ヶ浜遺跡	後期・晩期
16	横瀬遺跡	後期・晩期
17	迫田遺跡	後期・晩期
18	西原迫遺跡	晩期
19	新番所後遺跡	晩期
20	道下工区第１地点	晩期

第３図　指宿地域の縄文時代後期～晩期の遺跡立地図

第１表　指宿地域の縄文時代の遺跡表

NO	遺跡名	時期	遺物	遺構	立地	標高（ｍ）
1	西多羅ヶ迫遺跡	草創期・早期	無文・水迫式・塞ノ神式土器	―	尾根上	103
2	小牧３A 遺跡	草創期・早期	隆帯文・岩本式・前平式・吉田式	集石	台地上	65
3	岩本遺跡	草創期・早期	隆帯文・岩本式土器	―	台地上	63
4	水迫遺跡	草創期・早期	隆帯文・岩本式・水迫式	集石・舟形配石炉・落とし穴・柱穴	尾根上	126
5	尾長谷迫遺跡	早期・晩期	塞ノ神 A 式・黒川式（浅鉢系）？	―	台地上	40 ～ 50
6	北川遺跡	早期	貝殻文系	―	台地上	30
7	早馬迫遺跡	早期	塞ノ神 A 式	―	台地上	45
8	鳥添遺跡	早期	貝殻文系	―	台地上	64
9	西原道畑遺跡	早期	塞ノ神 A 式	―	台地上	33 ～ 43
10	橋牟礼川遺跡	中期・後期・晩期	阿高式・指宿式・市来式	ピット	扇状地	7 ～ 20
11	渡瀬遺跡	中期・後期	阿高式・指宿式・市来式・岩崎上層式	―	台地上	70
12	大園原遺跡	後期	市来式・指宿式・	―	台地上	25
13	南迫田遺跡	後期	指宿式（攪乱）	―	扇状地	20
14	大渡遺跡	後期・晩期	面縄東洞式系土器・乳房状尖底・指宿式・市来式・北久根山式	人骨２体（後期）	台地上	50
15	南摺ヶ浜遺跡	後期・晩期	宇宿上層式土器・上加世田式・入佐式・刻目突帯文・黒川式・石器・漁労具？	―	扇状地	8
16	横瀬遺跡	後期・晩期	岩崎上層式・入佐式・黒川式・夜臼式	―	台地	32
17	迫田遺跡	後期・晩期	大洞式系土器・黒川式系土器	―	扇状地	20
18	西原迫遺跡	晩期	夜臼式・黒色磨研	―	台地上	42 ～ 45
19	新番所後遺跡	晩期	上加世田式・入佐式・黒川式・刻目突帯文・扁平打製石斧、磨製石斧、石皿、叩石	―	扇状地	32
20	道下工区第１地点	晩期	岩崎上層式・入佐式・黒川式・夜臼式	―	台地上	46 ～ 52

【註】

１　鹿児島県立埋蔵文化財センター「埋蔵文化財情報データベース」（令和５年２月 20 日現在）を基準に報告書を参照した。なお，表採による周知の遺跡も，時代の特定できる遺跡に限り対象としているため，データベースに記載があり，本論にない遺跡もある。

参考文献

新垣 匠　2021「縄文時代の南薩地域における南島交流」『南島考古』第 40 号　沖縄考古学会　pp21-26

板倉 有大 2021 「九州南部縄文時代後・晩期の遺跡立地と遺構・石器組成」『原点回帰・南の考古学　前迫亮一代表還暦記念論集　南九州縄文通信 No.23』　南九州縄文研究会 前迫亮一代表還暦記念論集刊行会 pp117－128

小脇 有希乃 2019「分布地図から見る種子島の遺跡考察」『鹿児島考古』第 49 号　鹿児島県考古学会 pp21 ― 26

稲倉寛仁・成尾英仁・奥野充・小林哲夫 2014「南九州，池田火山の噴火史」『火山　第 59 巻　第４号』pp255 ～ 268

河野治雄 1958「第二編第一章　先史時代」『指宿市誌』pp33 ― 104　指宿市役所

相美伊久雄　2014「琉球列島の九州縄文時代中期土器について」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』pp47 ― 63 六一書房

渋谷綾子 2012 「鹿児島県水迫遺跡出土石器の残存デンプン粒と縄文時代草創期・早期における植物利用」『植生史研究』第 21 号 pp55-66

新東晃一 2007「南九州の初期縄文遺跡」『日本の考古学　上』 株式会社　学生社

堂込秀人 2016「南西諸島の縄文時代後晩期の南北交流」『第７回　沖縄考古学会･鹿児島県考古学会合同学会研究発表会資料集』pp １ ― 16　沖縄考古学会・鹿児島考古学会

松﨑大嗣・新垣匠・中摩浩太郎・鎌田洋昭（編）『海をみつめた古代人～イブスキ人の起源～』指宿市考古博物館　時遊館 COCCO はしむれ

※紙面の都合上，報告書は割愛させていただいた。ご了承いただきたい。

元治二年前田勘助日記にみえる「硝石丘小屋」について

中摩　浩太郎

１　前田勘助日記について

前田勘助は幕末における指宿郷麓宮ヶ浜に居住した郷士である。家は 13 石 6 斗 7 升余の石高があり，指宿郷地頭仮屋において諸役を務め，最終的に最上位の郷士年寄にまでなった人物である。文化 13 年（1816）に生まれ, 明治 17 年（1884）に没したが, 若くして演武館, 造士館に遊学し文武を学び, 梅田，野村氏の槍術に秀で，更に能書の才を認められていたとされる（指宿市 1985)。

前田勘助は，克明な日記を残しており，昭和４９年に鹿児島県維新資料編纂所が借用した段階の記録では, 天保９年（1838）から明治 10 年（1877）まで時期の日記があることが確認されている。ただ, その段階では全ての日記がそろってはいない状況であったことが，当時の記録からうかがえる[1]。

前田勘助日記は，平成 22 年に所有者から指宿市考古博物館に寄託され，保管されている。日記の翻刻は，昭和 50 年代に指宿市が文化財研究員に委嘱した森田秋弘氏によって，その一部がなされている。残念なことに，翻刻資料は正式に刊行されておらず，ガリ版刷りの冊子が指宿図書館や指宿市考古博物館に若干所蔵されているのみである。このため，史料として広く利用されるには不十分な状況である。

指宿市考古博物館では，これまで江戸時代に関連する企画展の中で前田勘助日記を取り上げ，実物を展示することはあったが，史料の翻刻と，その公開をすることはできていない。ただ，史料の持つ意味は知られているところであるため，今後この公開は必要な事項であると考える。

今回，現存はしない元治２年（1865）の日記について，森田秋弘氏による翻刻資料（森田 1975）を確認している中で,「硝石丘小屋」の記述に気付いたことから，その重要性に鑑み，ここに紹介するものである。

２　元治２年前田勘助日記該当部分

元治２年（1865）日記の３月２１日部分には，以下のような記述がある。

一　大根占白塩硝焚方掛横目西田源左衛門殿，昨日般ヨリ湊浦差し越され，<u>硝石丘小屋</u>見賦可致候ニ付，掛役々今日罷出候様、昨ゟ問合差繰候付、拙者并組頭鎌田六郎左衛門殿、坂本助右衛門殿、横目永池吉右衛門殿、郡見迴園田弥七郎、主ヤ田中與左衛門差越、大工坂本八郎兵衛并やねふき召寄セ見賦為致、賦書西田殿江差出候。左候而皆々列立<u>硝石丘</u>見分方有之候。然処、源左衛門殿ニも明日帰帆の筈ニ付、皆々暇いたし候也。

この日記記述の柱となる部分の概要は以下のような内容になる。

『大根占の白塩硝焚方の横目西田源左衛門殿が，昨日から湊浦にこられ，硝石丘小屋の見分をされることに伴い，今日係のものが参った。昨日からやりくりして都合をつけたことで，指宿郷の横目や組頭，郡見廻などの役人に加え，庄屋や大工，屋根葺き職人を召し寄せて見分を行った。』

ここに登場する記述で重要であると考えられるのは，既述のとおり「硝石丘小屋」であり，これが「湊浦」に置かれていたということである。

３　日本における硝石生産と「硝石丘法」

硝石（硝酸カリウム）[2]は火縄銃に用いられる黒色火薬の主原料であり，硝石・硫黄・炭を粉末状にして，7.5：1：1.5 で混合して生成される。ただ，わが国においては天然の硝石は入手できず，硝石生産を行う必要があったとされる。

野澤直美氏らによると，わが国における硝石生産が明らかになっているのは，戦国時代の 16 世紀中頃であるとされており，16 世紀末にその製造が広まったとされる。

さらに，わが国には３種類の硝石製造法が採用され，最も定着したのは「古土法」であり，もう一つは「培養法」であるとされ，幕末に薩摩藩が導入したとされるのが欧州の「硝石丘法」とされる。

古土法は家屋の床下土を用い硝石を生産するものである。具体的には，床下土を集め，桶に入れ，水を注ぎ一晩置く。その水を翌日釜で焚き，量が 30 分の 1 から 40 分の 1 程度に煮詰める。これに，灰を加え，沈殿物を集める方法で硝石が析出される。なお，この方法では硝石製造までに 20 年を要するという欠点があったという。

一方，培養法は加賀藩の五箇山や白川郷の限られた地域において，蚕家屋（合掌造り）を利用して行われたものであり，囲炉裏の床下に穴を掘り，干し草・土・蚕糞などを混ぜた培養土を入れ，４年間置き，５年目に土を取り出し，釜で焚き，古土法のように硝石が析出されるものである。この方法は，地域が限定されるという特色がある。

そして硝石丘法については，硝石小屋の中に，牛馬の糞尿を腐敗させた汁・土・動物の死骸・煙草殻等の草により小丘を作り，尿をかけ続けた後，丘の表土を削りとり，これを原材料とし，古土法のように硝石が析出されるものである。欧州で開発された方法で，既述のように幕末期の薩摩藩に導入されたものであり，生産期間が１年～３年と短期間である上，継続的に生産できる方法である（野澤ほか 2020）。

前田勘助日記に登場する「硝石丘小屋」は，上記の硝石丘法による硝石生産に使われる施設の記述である。

４　幕末の指宿における火薬製造

既述のとおり，元治２年（1865）において，指宿では「硝石丘小屋」を用いた「硝石丘法」による硝石生産が行われていた。大根占の「白塩硝焚方横目西田源左衛門」の見分が行われているため,「硝石丘小屋」が実際に機能していたことを示していると考えられる。

板垣英治氏によると，鹿児島藩による硝石丘法を用いた硝石生産は，安政５年（1858）に開始されたとされる。この年，藩主島津斉彬によって鹿児島谷山の中塩屋邑に作硝局と呼ばれる硝石場の建設が着手された。16 間×３間（約 29 m×約 5.4 m）の作硝小屋には６丘の硝石丘が築かれた（図１）。しかし，同年７月に斉彬が死去したことにより作硝作業は中断。次代藩主島津忠義によって，文久元年（1861）に事業が再興され，後に作硝所は谷山に移され，元治元年（1864）には，５間×２間の作硝小屋が 30 棟となり，他の施設も立ち並ぶ大規模な施設となった（石垣 2006）。

前田勘助日記の記述は，谷山の施設が大規模化した時期と同時期のものである。指宿では硝石丘小屋が,「湊浦」（現在の湊地区）に置かれていたのである。湊浦は「濵崎太平次」の本拠地である。硝石丘小屋での硝石生産は指宿郷の役所に係が置かれ，行わせていたことを知ることができるが，少なくとも土地の提供等に関して，９代濵崎太平次の関与がなかったとは考えにくい。というのも，硝石丘を形成するために用いる「硝土」には，牛馬の腐汁を用いるが，この生成には激しい悪臭が伴うとされる。谷山中塩屋の作硝場は民家から 300 m程離れていたとされるが,湊浦は６代濵崎太平次によって区画整理が行われた当指宿の人口集中地域のひとつであり,谷山中塩屋とは事情が異なるのである。

一方，硝石小屋記述の２年前の文久３年（1863）の前田勘助日記には次のような記述がある。

五月二日　晴
一　山川水車場へ此節銃薬方御造立二付当所ヨリ過分之杉材木御取下し二付，銃薬水車方横目（以下省略）

この記述は山川水車場に銃薬方が造立される際，指宿郷の杉材木が使われたことを示している。昭和２年刊行の薩藩海軍史には，山川成川村，川尻の火薬製造所が，文久３年（1863）の薩英戦争前，英艦来艦の厳戒に際し創設されたと記載されている（公爵島津家編輯所編　1929）。さらに，指宿市内で発見された「梅月禅寺」の扁額（図２）の裏書に，梅月禅寺敷地が文久３年に銃薬方の御用場に召し立てられたことが記載されている（時遊館 COCCO はしむれ　2012）。

成川銃薬方が設置された場所には，成川を流れる鳴川の水力を利用した水車場があり，菜種油の圧搾作業を行っていた。伊東凌舎は天保７年（1836）６月に山川を訪問したが，著書『鹿児島ぶり』の巻之三に，「山川湊，如圖。水車にて油しめ見物す。」と，水車を用いた菜種油の圧搾作業所を見物したことを記している（伊東 1980）。この水車は，銃薬方で黒色火薬の材料である硝石・硫黄・炭を粉砕するために利用されたと考えられる。前田日記にも「銃薬水車方」と記載されている。

これらのことから，幕末の指宿においては，黒色火薬製造に不可欠な硝石の生産が行われており，その製法は欧州から伝来した「硝石丘法」であったことを知ることができる。そして，この硝石生産は山川成川の銃薬方での火薬製造とも連動していたと考えられ，これらは鹿児島藩による軍備増強策の一環であったといえるだろう。

なお，火薬製造に必要な他の材料である硫黄と炭についてである。鹿児島県観光サイトに掲載された「山川火薬製造所跡」には，製造所が原料となる硫黄や硝石の海上輸送に適した山川港近くに設置されたと記載されているが，実際は硝石が湊浦で生産され，硫黄が鰻池で産出し（山川町 2000），炭は木炭として当時一般的に生産が行われていたから，幕末の指宿においては，黒色火薬がほぼ自給自足的に生産可能であったことが指摘できるのである。そして，それは弘化４年（1847）以降に当時の地頭海老原清熙らによって山川港周辺に砲台が整備され，元治元年（1864）段階で成川を含めた山川港に面して複数置かれた台場[3]に対応した措置であったと考えられる（図３）。

（註）

1　平成 22 年に指宿市考古博物館へ寄託された前田勘助日記は，弘化４年・安政５年・安政７年・文久３年・慶応２年・慶応３年・明治９年・明治 10 年のものと，明治維新前後国事雑録や道中記等である。閉じられず断片状の安政７年の日記以外は裏打ちされ冊子にまとめられている。一方，昭和 49 年時点の借用書には，上記以外に天保９年，元治２年，明治２年の資料が記載され，稲葉行雄氏の翻刻では文久元年も含まれている。それらは博物館寄託以前に失われたものと考えられる。昭和 49 年の記録では大部分の日記が枚数で記録されており，綴じられていない紙束の状態であったと考えられるからである。

2　硝酸カリウムは，塩硝，焔硝とも記載される（中西 2006）。

3　弘化４年には，蛭子・仮屋・充石、成川の八窪に砲台が設置されたとあり（山川町 2000），玉里島津家所蔵，鹿児島県歴史美術センター黎明館寄託の『元治元年　山川港台場地図』には，五人番に２ヶ所の台場が描かれている。

参考文献

石垣英治　2006 「硝石の舎密学と技術史」『金沢大学文化財学研究』第 8 号
伊東凌舎　1980 『鹿児島ぶり』巻之三
指宿市　1980 『指宿市誌』
公爵島津家編輯所編　1929 『薩藩海軍史』

時遊館 COCCO はしむれ　2012　企画展図録『指宿みなと物語－薩摩を支えた山川港－』
中西　崇　2006　「近世の塩硝・硫黄生産と火薬製造」『史観』154
野澤直美ほか　2020　「硝石製造法の史学的調査と実験的検証に関する研究－わが国における３主の硝石製造法の比較－」『薬史学雑誌』55
森田秋弘　1975　『元治２年　前田勘助日記』
山川町　2000　『山川町史』

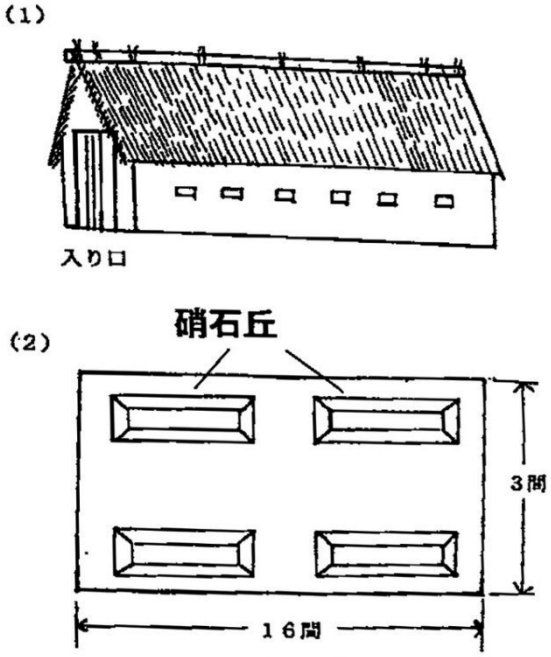


図１　鹿児島藩谷山作硝所の硝石丘小屋図
（石垣 2006 より。原図は河島萬良『鹿児島県谷山作硝所見聞記』明治 12 年９月写し，東京大学図書館蔵）

図２　梅月禅寺扁額写真

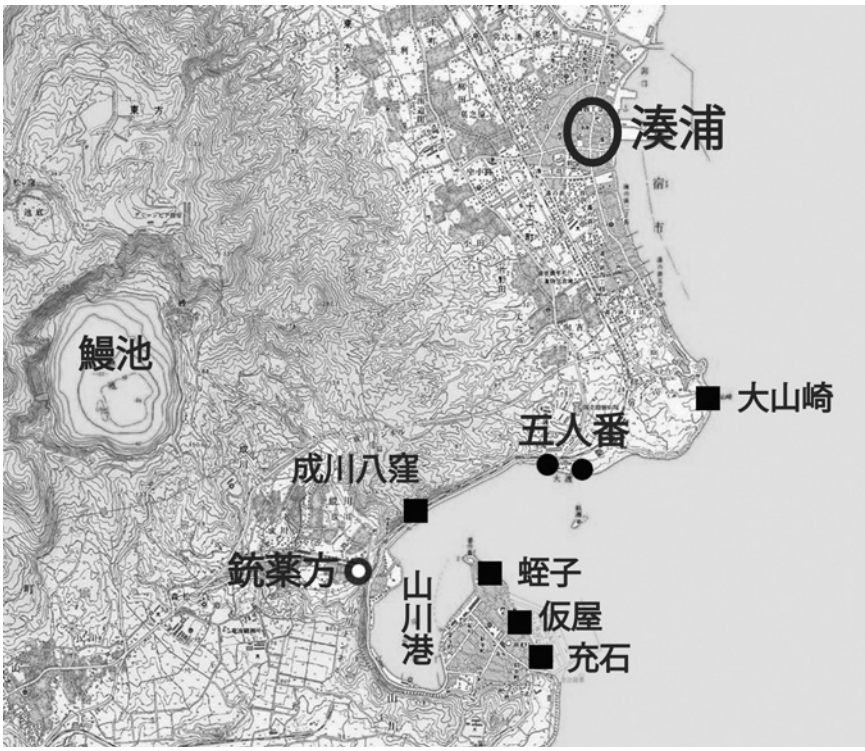


図３　湊浦・銃薬方・砲台の位置
（砲台：●元治元年　山川港台場地図から，■山川町史・字図から）

市指定史跡「殿様湯跡」の構造と周辺環境

松﨑　大嗣

１．はじめに

本論の目的は指宿市指定史跡「殿様湯跡」の構造を検討し，周辺の関連文化財群も含めてその特質を明らかにすることである。

筆者は，指宿市考古博物館　時遊館 COCCO はしむれ令和３年度企画展「泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉～」の開催にあたって，市内の公衆浴場，ホテル・旅館・湯治宿等の宿泊施設などの温泉施設を悉皆的に調査を行った。その中で，考古学・歴史学的側面から殿様湯跡の調査も進めた。しかし，殿様湯跡は現況では屋根などの上屋構造がなく，露天であることから，風雨による土砂の堆積が著しく，遺構としての情報を読み取りづらいという難点があった。そこで，二月田温泉殿様湯の方にも協力をいただき，浴室内の清掃や遺構の観察をおこなった。今回は，これまで認識されてこなかった殿様湯跡の構造を検討しながら，殿様湯が設置された歴史的背景についても考察する。

２．殿様湯の歴史

指宿市指定史跡「殿様湯跡」は，二月田温泉殿様湯の敷地内にある近世の浴場遺構である。指宿市における「殿様湯」は，鹿児島藩主が設けた「温泉行館」を指す言葉であり，これまで３つの殿様湯が設けられたことが史料から明らかとなっている。以下からは，それぞれの殿様湯を「摺ヶ浜殿様湯」，「長井殿様湯」，「二月田殿様湯」と呼称して整理したい。

（１）摺ヶ浜殿様湯

摺ヶ浜殿様湯は，『三国名勝図会』に２代藩主島津光久の治世（1616 ～ 1695 年）に，摺ヶ浜に別荘が設置されたことが記されている。

「拾貳町村（十二町村）にあり，温泉海渚に出づ，此地沙蒸を用ゆ，病客沙を穿て横に臥し，暖沙を覆ふて其の身を暖む，これを沙蒸といふ

潮退し時は，沙蒸塲更に廣し，又沙蒸塲より數歩陸地の方に，浴地を設けたる温泉ありて，病客沙蒸より出る時は，其浴池の湯に入て，身を洗ひ淨む

此沙蒸は諸病を治し，筋骨の疼痛に效驗あり，往昔　寛陽公の時，行館を設けられ，屢光臨し給ひ，神功の温泉なりとて，神井と名つけられ，詩幷序を裁して，土地の景勝温泉の奇驗を述へ，行館の掛軸となし給へり

元禄十六年，行館を除かる，舊址今に存ぜり，其後　淨國公　大信公等光臨あり」

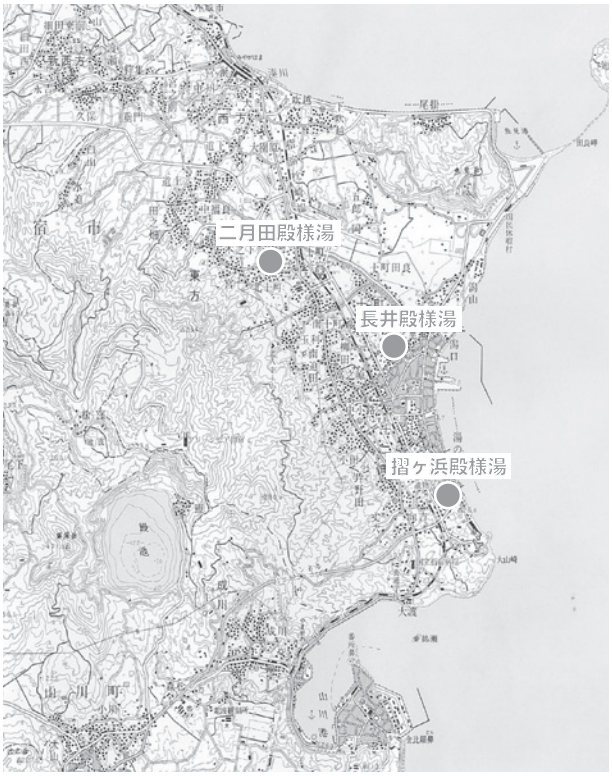


図１　指宿市内における殿様湯の位置

図２　上段写真：昭和初期の摺ヶ浜殿様湯（馬渡写真館提供），下段写真：摺ヶ浜砂むし場（昭和初期か？時遊館 COCCO はしむれ所蔵の絵葉書写真より引用）

上記の記述から，現在の「砂むし会館　砂楽」周辺に温泉行館を設けていたことがわかる。また，温泉行館の跡地が残っていることも記されているが，その場所は定かではない。しかし，昭和初期の「南薩指宿摺ヶ浜溫泉旅館偕樂園全景」には，旅館偕楽園の南側に「殿様湯」という腰屋根をもつ建物が描かれている。また，指宿市馬渡写真館所蔵の写真にも同様の建物が写っている（図２上段）。これが，江戸時代の「殿様湯」と同じ場所に建設された建物であったかについては判断できないが，以下に紹介する各殿様湯では，民間へ払い下げられる例が確認されていることから，摺ヶ浜殿様湯においても同様の利用があった可能性がある。

図３　長井殿様湯周辺を流れる湯の川

（２）長井殿様湯

長井殿様湯は，寛政９年（1797）に，９代藩主島津斉宣によって指宿市十町長井に設置された温泉行館である。長井殿様湯については，ほとんど情報がなく不明な点が多い。浴場については，昭和 10 ～ 20 年代まで集落共同浴場「殿様湯」が経営されており，これが長井殿様湯が払い下げられたものであ

図４　上段写真：殿様湯跡地に建設された「二月田温泉島泉館」（馬渡写真館提供）
※写真奥の額に「舊薩藩主島津公温泉」の文字が見える。

下段左写真：改築前の「二月田温泉殿様湯」（指宿市所蔵），下段右写真：市指定史跡「湯権現（ゆのごんげん）」

ると言われている。

周囲は現在でも温泉が湧出しており，湯の川が流れているが，浴場の痕跡はみられない。

（３）二月田殿様湯

二月田殿様湯は，文政 11 年（1828）５月に 10 代藩主島津斉興によって，二月田温泉に行亭が建てられ，浴地が設けられた。その後，天保２年（1831）には，長井殿様湯から二月田温泉に別荘を移設し，行館として本格的な利用が始まった。この移設に合わせて長井温泉に置かれていた「湯権現」も二月田殿様湯に隣接する形で設置された。

湯権現は，濱﨑家５代湊太左衛門によって，享和元年（1801）に長井殿様湯に寄進されたものである。昭和 46 年には市指定史跡に指定されており，現在は社殿北側に八幡宮が併設されている。

湯権現境内にある手水鉢は，湯権現が長井温泉にあった文政 11 年（1828）に調所笑左衛門廣郷から寄進されたもので，長井温泉から移設された同時期に運ばれてきたものである。つまり，長井殿様湯からの移設時に周辺の付属施設をまとめて二月田殿様湯跡へ移し，環境整備が行われたことが考えられる。

３．殿様湯跡の構造

（１）源泉と配湯

殿様湯跡は，現在の二月田温泉殿様湯に隣接している。建物の上部構造は一切残っておらず，石造りの下部構造のみが残っている。床面は石敷であり，床の中央付近には蓋付きの正方形の枡（70 ㎝× 75 ㎝）がある。現在は蓋は失われているが，受け口の形態からみて，「印籠蓋造り」であったと考えられている（中摩 2021）。ここが源泉であり，深さ約 2.0m の竪坑が掘られている。この源泉竪坑は当地の基盤層と考

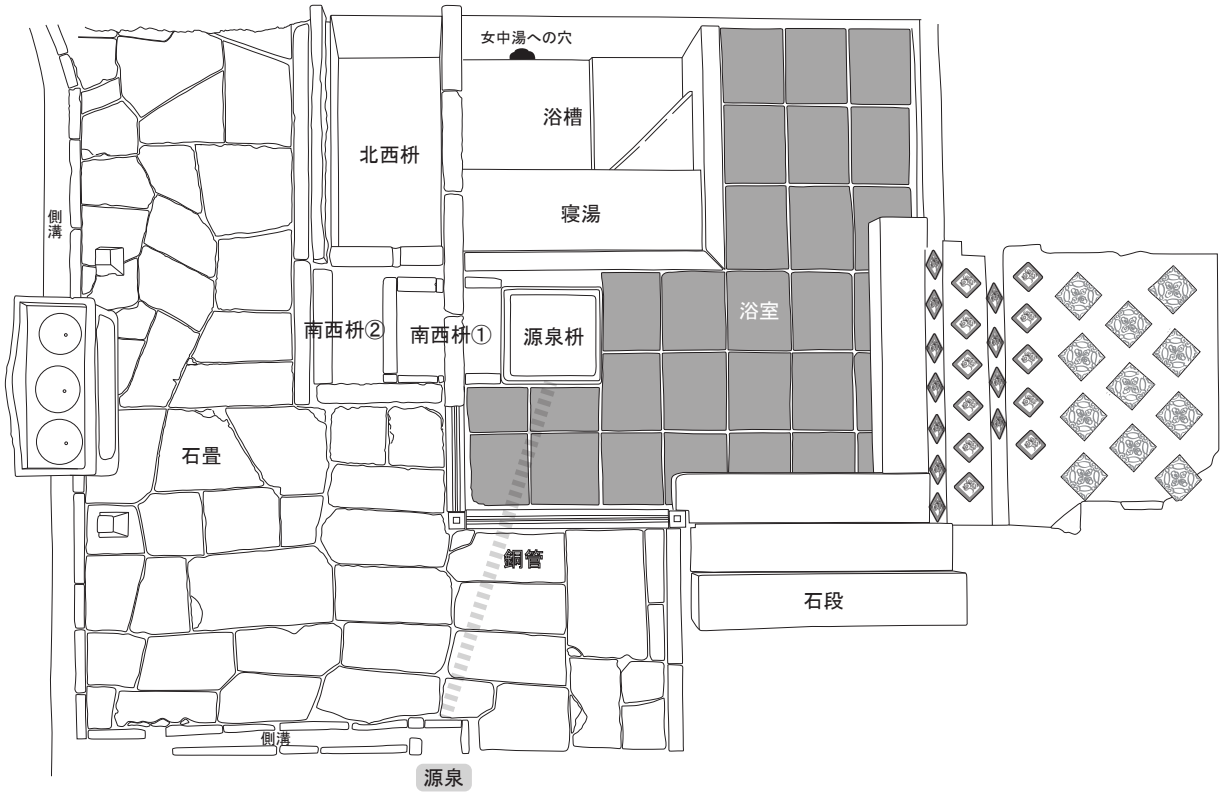


図５　市指定史跡「殿様湯跡」写真トレース図

えられる灰色シルト層まで達しており，ここから温泉が湧出している。竪坑内側面は，最下層部まで石積みが見られる。

源泉枡の南壁には銅管が飛び出している。この銅管は南側の石畳の下を通り，浴場外にある他の源泉が流れ込む仕組みになっている。浴場外の源泉は，現在も二月田温泉殿様湯の源泉として利用されている現役のものである。おそらく湯量が少ない場合などに源泉枡に湯を流す仕組みになっていたのだろう。

この源泉枡から南西枡①→南西枡②→北西桝→北東の浴槽という順に，時計回りに温泉が流れ込む仕組みとなっている。それぞれの枡の深さは，源泉枡（深さ 200cm）→南西枡①（76 cm）→南西枡②（80 cm）→北西枡（95 cm）→北東の浴槽（97 cm）であり，徐々に深さを増しながら浴槽へと湯が流れていたことがわかる。枡の間は導水溝で繋がっており，溜桝に一定量の湯がたまると隣の枡に注がれる構造となっている。また，各枡の間には湯量を調整するために木板を挟み込む溝が掘られている。

以上の点から，殿様湯では源泉をそのまま浴槽へ流すのではなく，温度を少しずつ下げて，浴槽の湯温を適温に調整，湯量も一定になるように工夫された仕組みがあったと考えられる。

（２）浴槽

浴槽は框石で東と南方向を囲まれている。南半分は深さ 10 cm弱程度と浅い造りで，北半分の 110 cm × 190 cmの部分は深さ 97 cmを測る。ここが湯に浸かる部分であり，浅い部分は寝転んで湯に浸かる「寝湯」に適した部分であると考えられる。寝湯は厚さ 15cm ほどの一枚岩が敷かれており，下部は空洞になっている。

浴槽の南東隅には三角形の階段が一段造り付けられている。角は丸く面取りされており，体が接することを考慮した造りであると言える。また，浴槽北壁には花弁形の穴が空いており，この穴が後述する「女中湯」へ湯を配るものであったと考えられる。

（３）浴室

浴槽の外側の石敷は，大きさが統一された方形の切石（50 cm× 60 cm）が敷き詰められた精緻な造りである。浴槽の框石とは段差なく，フラットに整えられている。石敷は框石で区切られており，この框石上面には襖あるいは障子をはめこむための溝が掘られている。この外側の框石が接続する南西角には，ほぞ穴が見られ，柱が立っていたことが推測できる。このほぞ穴は南側の石段の根元にもみられる。石敷の精緻さや統一性，框石による区画などを考慮すると，上記範囲が浴室であると考えられる（中摩 2021）。

（４）石段

浴室の東側と南側に石段がとりつく。東側の石段は，一段目は石製だが２・３段目はコンクリート造りである。コンクリートの踏板と蹴込み部には 15 cm× 15 cmのタイルが現状で 22 枚貼り付けられる。また，踊場面には 23.5 cm× 23.5 cmのタイルが 11 枚貼り付けられている。これらのタイルは，イギリス製の銅版転写タイルと瀬戸の銅版転写タイルであり，いずれも明治中期（1880 ～ 90 年代）のものと考えられている[1)]。つまり，東側の階段は明治時代以降に造り付けられたものであり，藩政期には存在しなかった遺構と判断できる。

南側の階段は，縦 39 cm×横 192 cm×高さ 21 cmを測り，一段目のみ，北西隅が丸く面取りされている。また，先述したように一段目と二段目の境界付近に設けられたほぞ穴を切るように切れ込みが設けられている。そのため，浴室を区切る框石と南側の階段は同時期であると考えられる。さらに，東側一段目の階段は縦 36 cm×横 192 cm×高さ 20 cmを測り，２・３段目とはことなり，北側に 23 cmズレがみられる。

ドローン写真（大西智和氏提供）

清掃前

浴室（東から）

浴室（南西から）

浴槽（北東から）

浴槽（南から）

配湯枡（西から）

図６　市指定史跡「殿様湯跡」清掃時の写真

これは本来南側の四段目に設置されていたと考えられるもので，おそらく東側の石段を建設する際に，四段目を取り外して付け替えたものと考えられる。

図７　御前湯から女中湯へのびる穴

（５）浴室外の施設（石畳・側溝）

上にあげた浴室の外側には，形態や大きさが不揃いな石畳が敷かれている。のちに説明する図３に「湯源」と記された場所は，この不揃いな石畳が敷かれた場所であり，設備等の配置からこの場所は明らかに裏方（バックヤード）に当たる役割であったと考えられる（中摩 2021）。

石畳の南側と西側に沿うように幅 12 ㎝の側溝がある。南側には縦 20 ㎝×横 30 ㎝の小型の枡があり，この枡と浴場内の源泉桝は銅管で結ばれている。先述したように，小型枡の南側で湧出した湯は，銅管を通り源泉枡へ運ばれており，湯量に応じた源泉の使い分けや併用があった可能性がある。

石畳全体は西側に向かって緩やかに傾斜しており，浴槽側へ湯が流れ込まない工夫がみられる。石畳周囲の側溝はこれらの湯の排水のために使用されたものと考えられる。石畳西側に見られる台形状の礎石および手洗い用の施設は，コンクリート製であり明治期以降のものと考えられる。タイルと同様，藩政期には存在しなかったものである。また，石畳の北側は現在の二月田温泉殿様湯の基礎の下へ潜り込んでいる。

４．殿様湯の石碑

殿様湯跡の周囲には２基の石碑がある。両者とも山川石製と考えられる。ここでは１号石碑，２号石碑と呼び分けて説明する。

御湯殿口
従是内御用之外不
〈口語訳〉
殿様湯の入り口
これより内側はお殿様専用のため，入ってはいけません。

従是内士郷士與力之外不可入もの也
〈口語訳〉
これより内側にはお侍さんなどの武士の方以外は入ってはいけません。

一　御長屋内江罷出候家来下人幷作し者湯入
御免其外無用人出入相成事
二　諸人入湯節高雑談等可為無用就中
夜分者猶以可相談事
〈口語訳〉
一　この建物へ入って良いのは，家来や下人だけで，用のない人は入らないように。
二　温泉に入る人は，昼間は大声の雑談等を控えることはもちろんのこと，夜はなおもって控えるように。

図８　殿様湯跡に残る石碑　右：１号石碑，左：２号石碑（松﨑ほか編 2021 より引用）

（１）１号石碑

１号石碑は幅 29 ㎝，奥行き 22 ㎝，高さ 83 ㎝で，殿様湯東側に建てられている。「御湯殿口　従是内御用之外不可入」と記されており，藩主以外の立ち入りを禁止する内容である。

（２）２号石碑

２号石碑は幅 28 ㎝，奥行き 22 ㎝，高さ 154 ㎝を測り，二面に文字が刻まれている。この石碑にも入浴を禁ずる内容が書かれているが，こちらは士，郷士，與力，家来，下人以外の入浴を禁ずる内容となっている。また，「入浴時は大声での雑談を控えるように」などの注意事項も記されている。

これまで殿様湯跡は，その名称から，藩主以外の入浴を禁じていたと考えられてきたが，２号石碑の記述によって，入浴可能な身分が定められていたことが明らかとなった。また，入浴時の心得も記されており，複数人が同時に入浴していたことが想定される。つまり，二月田殿様湯跡は藩主だけでなく，様々な身分の人物が入浴していたことになる。現況では浴槽が一つしか確認できないことから，その実態がよくわからなかったが，次に紹介する絵図を見ると複数の浴室があったことが明らかとなった。

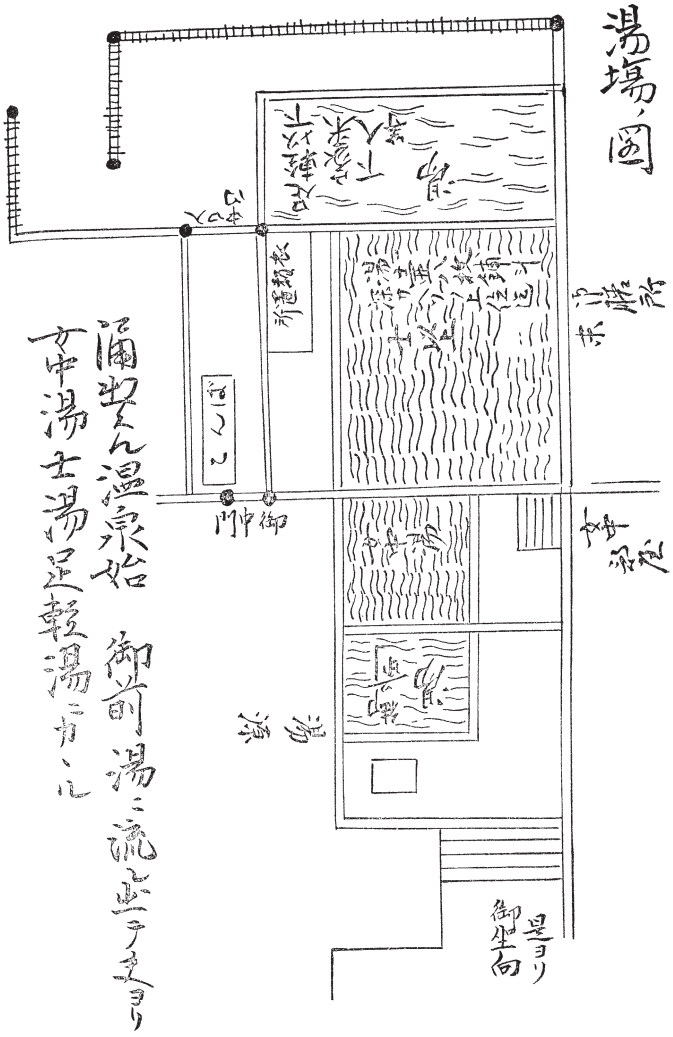


図９　殿様湯を描いた「湯場ノ図」

５．殿様湯絵図「湯場ノ図」

殿様湯跡の往時の姿を知る手がかりとして，「嘉永四年島津斉彬下潟巡検御供日記」に描かれた「湯場ノ図」がある。この絵図は，島津斉彬が嘉永４年 10 月 21 日から 11 月 25 日の間，藩内を巡検した行程のなかに所収されている。日記中には，斉彬は 11 月２日に二月田御茶屋（殿様湯）に到着し，11 月 24 日まで約 20 日間殿様湯に滞在していたことが記されている。

絵図には，浴槽が４つ描かれており，それぞれ「御前湯」，「女中湯」，「士以上」，「足軽以下家来下人等湯」となっている。これは，身分によって入浴可能な浴槽が異なっていたことを示している。「士以上」の湯には，「湯壺八枚鋪斗」，「深サヘソノ上位迄」など浴槽の大きさや深さについても詳述されている。おそらく複数人で入浴したと考えられ，「衣類置所」の表記も見える。

また，浴場だけでなく，御前湯に隣接して「是ヨリ御座向」，「女中湯」に隣接して「女中部屋」，「士以上」の湯に隣接して「御膳所」などが記されており，浴場以外にも様々な施設があったことがわかる。御座間があったと考

えられる場所では，平成 11 年度に指宿市教育委員会による範囲確認調査が実施されているが，遺構・遺物は検出されていない（下山ほか編 1999）。今後の課題である。

また，絵図中に書かれた文字をみると，御前湯から流れ出た湯は，女中湯→士湯→足軽湯に流れ通じていたことがわかる。つまり，湯源に最も近い場所で藩主が入浴したのち，身分によって分かれた浴槽を湯が流れていたことになる。その証拠に御前湯北壁をみると，下部に花弁形の穴が空いていることから，ここから女中湯へ湯が配られていたことが推定できる。残念ながら，女中湯より北側については，現在の二月田温泉殿様湯が建っていることから，遺構の有無を確認することができない。ただし，遺構面のレベルを確認すると二月田温泉殿様湯基礎よりも殿様湯跡のレベルが低いことから，地中で残存している可能性も考えられる。

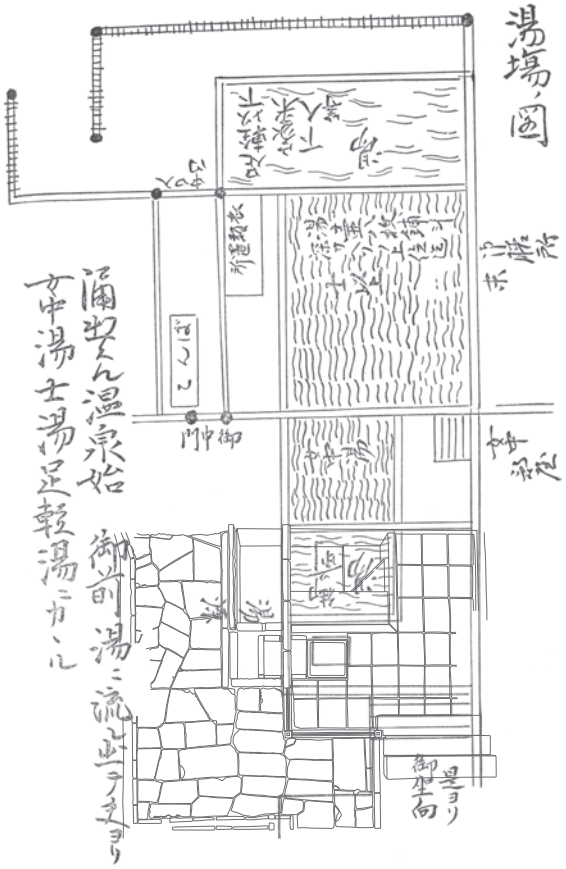


図 10 「湯塲ノ図」と殿様湯跡トレース図の合成図

６．まとめ - 殿様湯跡周辺の景観 -

以上の点を踏まえると，二月田殿様湯跡は藩主専用の浴場の側面も持ちつつ，北側の浴室では身分によって入浴規制がかけられながら，多

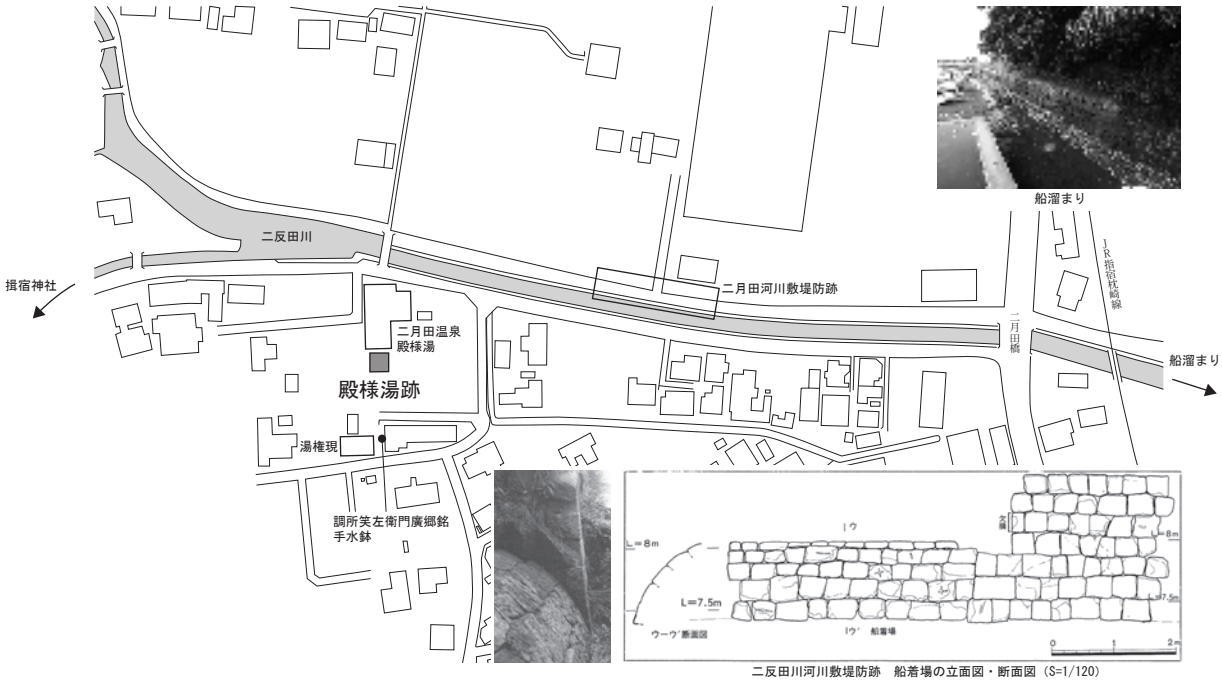


図 11　殿様湯跡周辺地図

くの人々に利用されていた浴場であったことがわかった。浴場の構造は，深さ２ｍ　の源泉から湧き出た湯をそのまま利用するのではなく，複数の枡を経て，適温･適量になるように調整されたものだった。さらに，御前湯に配られた湯は，女中湯からさまざまな身分の浴室へ流れており，「湯場ノ図」の記述から階層的な湯の利用が看取できる。女中湯以下の浴槽については，現在では遺構を確認することができないが，御前湯浴槽から女中湯へ配湯する穴が確認できたことから，「湯塲ノ図」の記述と一致する可能性が高く，遺構が削平されていなければ，現在の二月田温泉殿様湯の地下に保存されている可能性がある。

このように，複雑な構造を持ちながら，近世の温泉遺構として貴重な「殿様湯跡」であるが，最後になぜこの地が温泉行館として整備されたかについて周辺の状況を踏まえて考察してみたい。

二月田殿様湯は先述したように,島津斉興の治世である天保２年（1831）に整備が行われた。当時は，藩の財政再建のため，調所広郷とともに財政改革が推進されていたが，指宿においても大規模な土木工事や農業整備が行われた。いくつかの例をあげると，新田地区等の干拓工事（1830 ～ 44 年），宮ヶ浜港防波堤の設置（1833 年），潟口の船溜まり設置工事（1843 年），揖宿神社の改築（1847 ～ 48）などがある。これらの公共事業と併行して，八代濵﨑太平次や七代河野覚兵衛などの指宿・山川の海商らによる藩密貿易も進められた。

殿様湯跡は，これらの公共事業と同時期に長井殿様湯から二反田川沿いの現在の場所へ移設された。藩主は指宿沖に船を停泊させ，小型船に乗り換え，二反田川を遡上して殿様湯を利用したと考えられる。その証拠に，二反田川では平成５年の豪雨によって現在の川沿い道路面が崩落，殿様湯周辺ではその内側から石積や船着場が発見されている。緊急記録調査が行われ，その石積工法から，江戸時代の石積堤防であることが指摘されている（渡部ほか編 1995）。また,『鹿児島縣維新前土木史』によると，天保 14 年（1843）に潟口の船溜まりから上流へ 2.7 ㎞の堤防を整備したことが記録されているため，船溜まり整備と同年に二反田川の改修整備も実施されたと考えられる。船着場と考えられる石積は，緩やかなカーブを描いて石が５段積み上げられているもので，高さ約 1.25m，長さ約４ｍを測る。石積みの上部には，桟橋等の構造物があったことも推定されている。

以上の点から，二月田殿様湯の設置は，斉興や調所による公共事業遂行の中で，整備された事業の一つと言える。これらの公共事業の背景には，山川港や指宿港を中心とした海上交易や海上交易を支えるための環境整備などがあり，そのための休養場所や宿泊場所として利用されたのが二月田殿様湯だったのだろう。

今後は，指宿における他の殿様湯（摺ヶ浜殿様湯，長井殿様湯）を含めた総合的な研究を進め，指宿温泉の変遷や特質を明らかにしたい。

注

１）九州陶磁文化館の大橋康二元館長のご教示による。

謝辞

本論は令和４年度鹿児島県考古学会研究発表会で発表した内容を再構成したものである。執筆にあたり,福ヶ迫忠氏,中摩浩太郎氏,西野実氏,西牟田瑛子氏には様々なご教授をいただきました。また,ドローン撮影においては，大西智和先生にご協力賜りました。記して深く感謝申し上げます。

参考文献

鹿児島県土木課（編） 1934『鹿児島縣維新前土木史』

松﨑大嗣・中摩浩太郎（編） 2021『泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉～』指宿市考古博物館 時遊館 COCCO

はしむれ
中摩浩太郎　2021「徹底解剖殿様湯跡」『泉都指宿一度はおいで～世界に誇る海浜温泉～』指宿市考古博物館　時遊館COCCOはしむれ
下山覚・中摩浩太郎・渡部徹也・鎌田洋昭（編）　1999『橋牟礼川遺跡XV・敷領遺跡・殿様湯跡』指宿市教育委員会
渡部徹也・鎌田洋昭（編）　1995『二反田川河川敷堤防跡』指宿市教育委員会

25th Anniversary
Since 1996

Ibusuki Archaeological Museum
時遊館 COCCO はしむれ

開館25周年記念ロゴ

ANNUAL REPORT & BULLETIN OF IBUSUKI ARCHAEOLOGICAL MUSEUM VOL.15

指宿市考古博物館
時遊館 COCCO はしむれ
令和３・４年度
博物館年報・紀要　第 15 号

2023 年 3 月

発行
指宿市教育委員会
鹿児島県指宿市十二町 2290 番地
TEL 0993-23-5100

印刷所
株式会社　指宿新生社印刷
鹿児島県指宿市東方 8068-3
TEL　0993-24-2002